

国際学部

FACULTY OF INTERNATIONAL STUDIES

2019

履修要項



大阪経済法科大学

OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS AND LAW

目次

- ❖ 建学の理念・本学の教育目的……………4
学位授与の方針（DP）、教育課程の編成・実施の方針（CP）
- ❖ 国際学部長からのメッセージ……………7
2019年度学年暦……………8

I 履修案内

- ❖ 履修登録……………12
（1）履修登録の諸条件 （2）演習履修 （3）海外語学研修、フィールド・プロジェクトⅠ・Ⅱの履修
（4）履修取り消し制度 （5）履修登録した授業の教科書購入
- ❖ 編入生の皆さんへ……………16
（1）学修における注意点 （2）履修制限単位 （3）卒業要件（編入学生用）
- ❖ 成績評価とGPA制度……………19
（1）成績評価の方法 （2）成績評価の基準等 （3）GPA制度 （4）成績発表 （5）成績質問

II 国際学部国際学科教育課程

- ❖ 卒業要件……………22
- ❖ 国際学部履修系統図……………24
- ❖ 国際学部開設科目一覧表……………28
- ❖ 国際学部の人材養成理念・目的……………35
（1）養成する人材像 （2）学生が修得すべき能力
- ❖ 国際学部の教育課程の特色……………38
（1）学際的学修 （2）異文化理解の醸成 （3）実践的コミュニケーション能力
（4）国際教育プログラム （5）演習教育 （6）2つのコース （7）国際色豊かな教育空間
（8）特別プログラムと資格取得支援
- ❖ 国際学部教育課程の編成の考え方……………40
（1）教育課程編成の基本方針 （2）科目区分及び科目構成
- ❖ 国際学部の1年次教育……………46
（1）1年次教育プログラム科目群 （2）1年次教育プログラムの位置づけ （3）授業の運営
（4）1年次の必修・選択必修・履修推奨科目
- ❖ 国際学部の2年次教育……………48
- ❖ 国際学部の3,4年次教育……………50
- ❖ コース制と履修モデル……………52
（1）国際コミュニケーションコース （2）グローバルキャリアコース
（3）国際コミュニケーションコース履修モデル （4）グローバルキャリアコース履修モデル
- ❖ 国際学部の英語教育……………58
（1）英語教育の考え方 （2）到達度指標（TOEIC®）
- ❖ 留学生の皆さんへ……………60
- ❖ 国際教育プログラム……………63
（1）海外語学研修 （2）フィールド・プロジェクトⅠ・Ⅱ （3）英語圏1セメスター留学
（4）交換留学
- ❖ インターンシップ・海外インターンシップ……………66
（1）インターンシップ （2）海外インターンシップ

III キャリア形成支援プログラム

- ❖ キャリア形成支援プログラム……………68
（1）キャリア形成のための科目 （2）キャリア形成支援プログラムの概要
（3）女性キャリアプログラム （4）国際学部特別プログラム （5）Athlete Career Program
（6）就活シリーズ講座 （7）就活実践Camp

IV その他

- ❖ 資格取得を目指した学習のために……………78

資料

- 大阪経済法科大学学則……………84

1 建学の理念・本学の教育目的

（１）建学の理念

「経済と法律、二つの学問の修得による人格の形成」
「実学の精神を持った人材の育成」
「人権の伸長と国際平和への貢献」

建学の理念は、創立者金澤尚淑博士の信念に基づくものです。
金澤博士は、経済学と法学の両方を学び、その後、実業界に身を投じ、経済と経営に通暁するにつれ、法律に対する精確な認識が不可欠なことをあらためて確信しました。
金澤博士は、知識基盤社会の到来を予測して、学ぶ意欲を持ち、そのための努力を惜しまない者すべてに門戸が開かれた高等教育の実現に向けて尽力し、1971年1月27日、学校法人大阪経済法律学園を設立し、同年4月、大阪府八尾市に経済学部と法学部の2学部からなる大阪経済法科大学を開設しました。
本学園はグローバル化する現代社会の中で、教育研究を通じた人権の伸長と国際平和への貢献に力を注ぎ、海外の大学・研究機関と幅広いネットワークを築き上げてきました。2016年4月、これらの経験をふまえて、新たに国際学部を設置しました。また、2019年4月には経済学部経営学科を改組して経営学部を設置し、4学部を擁する社会科学系総合大学へと発展しています。
本学園は、建学の理念を、「学校法人大阪経済法律学園寄附行為」前文に、次のように定めています。

創立者金澤尚淑博士は、「経済と法律が社会の両輪であり、この二つの学問を修めることによって無類の人格を形成することができる。」との信念に従い、万人に開かれた高等教育の実現を目指し、幾多の苦難を乗り越えて、一九七一年（昭和四十六年）に学校法人大阪経済法律学園を設立した。本学園は、創立者の建学の理念に基づき、広く知識を教授し、実践の中から真理を探究する実学の精神を持った人材の育成を行うとともに、教育研究を通じて人権の伸長と国際平和に貢献することを使命とする。

（２）本学の教育目的

本学は建学の理念に基づき、大学の基本理念、使命及び目的に関連して、「大阪経済法科大学学則」第1条に次のように定めています。

本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の理念に基づいて、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性と国際感覚にあふれた独創的で実践力に富む人材を育成し、もって社会の発展と平和に貢献することを使命とする。

本学は、この教育目的にそって、学生の皆さんに対し専門教育並びに教養教育を行っています。経済学部経済学科は、「経済学を中心とする幅広い専門知識とその実践的応用能力を有し、内外の社会的状況を考慮しつつ、市民社会や企業の直面する諸問題を理解し、倫理と公共性と責任感を持って、グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。」（学則第2条第2項（1））、法学部法律学科は、「基礎的な法学教育を土台として、法と政治についての高度な専門知識を授け、正義と公平を旨とするリーガルマインドをもって現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成を目指して、教育研究を行う。」（同第2条第2項（3））国際学部国際学科は、「異文化理解・多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざして、教育研究を行う」（同第2条第2項（4））こととしています。
そして、2019年度に新たにスタートした経営学部経営学科は、「経営学を中心とする幅広い専門知識と多様な応用能力を修得し、技術革新やグローバル化の進展によって産業や社会システムが変化する中で、実践的な課題解決力を備え、現代ビジネスの諸課題に主体的・創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。」（学則第2条第2項（2））こととしています。

本学の使命及び目的は、学生の皆さんが本学での学生生活を通じて専門知識と幅広い教養及び就業力を身につけ、グローバル化・情報化が進む社会において、自らの能力と個性を発揮して活躍することができるように、教育と環境を提供することです。

学位授与の方針（DP）、 教育課程の編成・実施の方針（CP）

1 国際学部国際学科の学位授与の方針（DP）

国際学部国際学科は、異文化理解・多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の育成を目指している。国際性と学際性とを特質とする学士課程教育によって、以下の能力を身につけている学生に対し、「学士（国際学）」の学位を授与する。

1. グローバル化する現代社会の諸問題を理解し、理論と知識をもってその解決に向けて自ら考え、取り組む姿勢を身につけている。
2. 英語を中心として、国際コミュニケーションに必要なコミュニケーションのツールとスキルを活用する能力を修得している。
3. 国際社会の多様性を尊重しつつ、同時に自己のアイデンティティをもって行動することができる能力を修得している。
4. 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協力し、社会の一員として活躍できる能力と生涯にわたる就業力を身につけている。

2 国際学部国際学科の教育課程の編成・実施の方針（CP）

2.1. コース制による学修と卒業要件、学修・留学・進路支援制度

- (1) 将来の進路に対応した2つのコースによる学修
 - 1) 国際コミュニケーションコース
 - 1 「国際交流・公共サービスモデル」
 - 2 「観光ホスピタリティモデル」
 - 3 「英語専門職モデル」
 - 2) グローバルキャリアコース
 - 1 「民間企業・国際業務マネジメントモデル」
 - 2 「国際商取引モデル」
 - 3 「国際協力モデル」
- (2) 卒業要件と必修科目の設定
 - 1) 卒業要件：合計124単位
 - 2) 必修科目
 - 1 年次：Intensive English L/S I・II、Intensive English W/R I・II、
海外語学研修あるいはフィールド・プロジェクトI、基礎演習A・B
 - 2 年次：Advanced English L/S I・II、Advanced English W/R I・II
- (3) 4年間を通したアドバイザー制度

2.2. 基礎から専門発展科目へつながる幅広い人文・社会科学等を通じた学際的学修

- (1) 異文化理解の基盤となる日本の文化、歴史、社会ならびに世界各国・地域の文化、歴史と、現代の社会事情に関する幅広い科目の設置
- (2) 1年次の専門基礎科目の学修後、3分野（国際理解、コミュニケーション、国際ビジネス関連）の専門発展科目群の配置
- (3) 各分野での学際的・複合的な学修
- (4) 情報化された現代社会を理解するための科目、コミュニケーションの理論的な理解のための科目の配置
- (5) プレゼンテーション、ディベート、ビジネス交渉等を少人数で学ぶ科目の配置

2.3. 実践的なコミュニケーション能力の育成

- (1) 1・2年次は、習熟度別20人以下の少人数クラス
- (2) チームティーチングで英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）のバランスよい教育
- (3) 3年次以降は、CBLT（Content-Based Language Teaching）で、英語による専門講義科目や演習科目の設置
- (4) 1年次の早期からの多彩な留学・海外体験実施による英語運用能力の向上
- (5) TOEIC®やTOEFL®等の英語能力試験の対策科目の配置

2.4. 1年次からの海外体験、多彩な留学プログラム等の国際教育プログラム

- (1) 1年次に「海外語学研修」または海外での「フィールド・プロジェクトI」への参加（必修）
- (2) 段階的にステップアップできる国際教育プログラムの提供、複数回の海外体験の積極的な推奨

2.5. 少人数・双方向型、実践型教育

- (1) 1年次から4年間を通して20人を定員とした少人数・双方向型教育の演習の開講
- (2) 各専門授業における双方向型教育の実施
- (3) 留学・海外体験、専門演習におけるPBL（Project-Based Learning）等の実践型教育の実施

2.6. 異文化理解と多文化共生を育む国際色豊かな教育空間

- (1) キャンパス内におけるネイティブ教員や多様な国・地域出身の留学生との日常的な交流の積極的な推進
- (2) 豊かな国際感覚を育むキャンパスライフの創出

2.7. 体系的なキャリア教育と特別プログラム・資格取得支援

- (1) 正課での4年間にわたる体系的なキャリア教育の実施
- (2) 日本語文章表現能力、コミュニケーション技法、ICTの活用能力などの汎用的技能の養成
- (3) 正課外での特別プログラムの実施、資格取得の積極的なサポート
- (4) 海外インターンシップによる、諸外国での就労体験

世界で活躍できる人材になるために

国際学部長 呉原志賢

国際化が進展している現代社会では、国境を越えたヒト、モノ、カネ、情報の交流が活発化し、経済、人口、環境、エネルギー、人の移動等、様々な問題を地球規模で考えることが大切になります。国際化は日本社会にも大きな影響をもたらしていて、人口減少と少子高齢化が進む中で、国際的な人の移動によって、日常的な外国人の方との接点が増えています。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に続いて、2025年国際博覧会の大阪開催（大阪万博）が決定し、すでに3000万人を超える訪日外国人（インバウンド）の数はさらに増えていきます。そういった中で、文化的背景の異なる人々のことを知り、日常的にコミュニケーションをとることが、求められるようになっていきます。

国際学部では、「世界を知る力」と「使える英語」を身につけて、異文化を理解し、様々な文化的背景を持つ人達と何かを成し遂げるために、チームワークとリーダーシップを発揮できる人材を育てることを目指しています。

1年次は、「世界を知る力」を身につけるうえでの出発点として、異文化理解と、過去から、現在、未来を見つめ、日本と世界を学び、国際社会の様々な問題を考えることで、「世界を知る」ことの大切さに気づいてもらいたいと考えています。そのため、講義やゼミだけでなく、全員が海外に出て、色んな文化や社会、人々に触れ合います。2年生以降は、1年生での学修や海外体験を活かし、専門科目の学びをとおして、より深く世界を知っていきます。そのため、将来の進路を見据えて、「国際コミュニケーションコース」、「グローバルキャリアコース」のいずれかを選択し、社会、文化、歴史、政治、経済、ビジネス、情報、コミュニケーションといった専門分野を、幅広く段階的に学修します。

「使える英語」については、必修科目で「聞く、話す、読む、書く」の4つの力をバランスよく身につけ、英語で学ぶ専門科目で、英語でコミュニケーションを図る上で必要となる高度な知識、情報を正確に理解し、表現ができるようにします。さらに、2年生以降に、中長期の留学に行き、留学生との交流をとおして、実践的な英語の力を磨きます。

国際学部では、「世界を知る力」と「使える英語」の力にくわえて、生涯にわたって社会で活躍できる力を育むために、入学直後から段階に応じた体系的なキャリア教育を進めています。また、「旅行・観光業界」、「エアライン」、「商社・貿易」、「英語プロフェッショナル」といった特別プログラムを実施しており、多くの学生が将来の進路に関連した学びや資格の取得に取り組めるようになっています。

国際学部は、皆さんの希望進路を実現して、世界で活躍できる人材になれるように、全力でサポートします。

2019年度 学年暦

2019年度 学年暦

■春学期

4 April	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	4/1(月)■学年始め 4/3(水)■入学式 4/4(木)~5(金)■新入生集中セミナー 4/8(月)■春学期授業開始 4/20(土)●補講日 4/27(土)■4/26創立記念日の振替休日
		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					
5 May	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	5/7(火)■春学期学費最終納付日 5/18(土)●補講日
				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
6 June	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	6/15(土)●補講日
							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	²³ / ₃₀	24	25	26	27	28	29	
7 July	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	7/13(土)●補講日 7/15(月・祝)■臨時授業日(月曜日分) 7/29(月)■春学期授業終了 7/30(火)~8/7(水)■春学期末試験期間
		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
8 August	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	8/8(木)~9/25(日)■夏季休業期間 8月中・下旬■追試験
					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
9 September	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	9月上旬■春学期成績発表 9/20(金)■春学期卒業式<予定> 9/26(木)■秋学期授業開始
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						

補講日……………やむをえず休講(休み)となった授業の代わりに実施する授業日です。

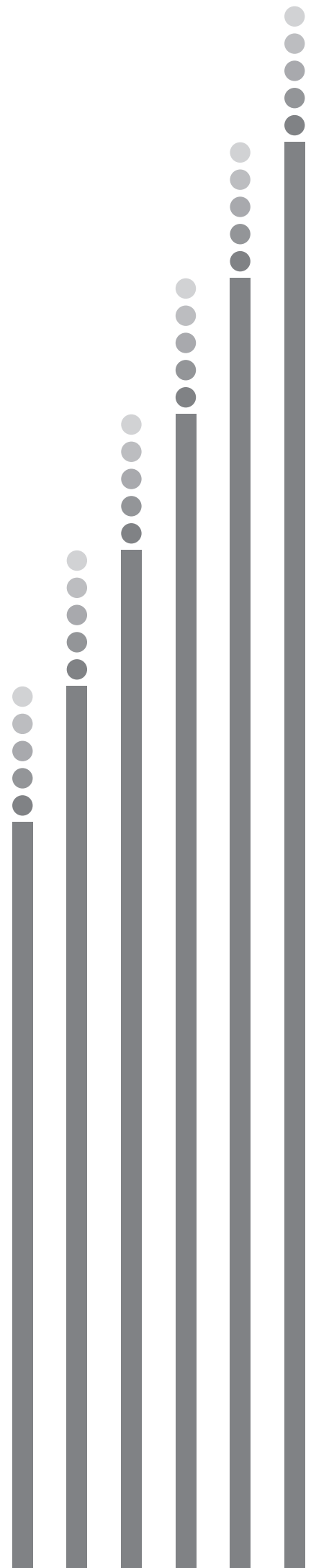
■秋学期

10 October	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	10/14(月・祝)■臨時授業日(月曜日分) 10/19(土)●補講日 10/21(月)■秋学期学費最終納付日
			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
11 November	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	11/1(金)■臨時休講日 11/16(土)●補講日 11/28(木)●学生研究発表大会
						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
12 December	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	12/14(土)●補講日 12/24(火)■冬季休業前授業終了 12/25(水)~1/5(日)■冬季休業期間
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
1 January	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	1/6(月)■冬季休業後授業開始 1/11(土)●補講日 1/27(月)■秋学期授業終了 1/28(火)~2/5(水)■秋学期末試験期間
				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
2 February	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	2月中・下旬■追・再試験
							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
3 March	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	3月中旬■秋学期成績発表(3年生以下) 3/18(水)■学位授与式 3/31(火)■学年終わり
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

成績発表……………毎学期の成績通知書は、郵便にて自宅(帰省先)に送付します。

2019年度 学年暦

I 履修案内



(1) 履修登録の諸条件

履修登録を行う際は、次の条件に注意してください。

① 配当年次以外での履修はできません

各授業科目に配当年次（履修の対象となる学年）が定められています。この配当年次以外で履修することはできません。

② 同一科目の二重履修はできません

同じ科目を二つ以上履修することはできません。担当者や内容が異なっている同じ科目名である場合には二重履修となります。また、すでに単位を修得している科目を再度履修することはできません。

③ 履修制限単位を超えて履修できません

1年間および1学期間で履修できる単位には制限を設けてあります。系統的・総合的に学修計画を立て、毎年度確実に単位を修得してください。

2019年度～2016年度入学生用

学年	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
年間制限単位	48単位		48単位		48単位		48単位	
学期制限単位	26単位	26単位	26単位	26単位	26単位	26単位	26単位	26単位

（注）年間の制限単位は合計48単位、学期ごとの制限単位は26単位です。春学期と秋学期の合計履修単位数は年間合計で48単位を超えることはできません。

履修単位の例

例1) 1年次春学期 23単位を履修 → 1年次秋学期は25単位が上限です。(年間48単位-春学期23単位=25単位)
例2) 2年次春学期 26単位を履修 → 2年次秋学期は22単位が上限です。(年間48単位-春学期26単位=22単位)

※秋学期の上限単位数は、春学期の履修登録単位数によるものであり、修得単位数ではありませんので、注意してください。

④ クラス指定のある科目があります。

学年および学籍番号によりクラスが指定されている場合があります。

【クラス指定】

1年次		2年次		3年次	
春	秋	春	秋	春	秋
Intensive English L/S I (必修)	Intensive English L/S II (必修)	Advanced English L/S I (必修)	Advanced English L/S II (必修)		
Intensive English W/R I (必修)	Intensive English W/R II (必修)	Advanced English W/R I (必修)	Advanced English W/R II (必修)		
基礎演習A (必修)	基礎演習B (必修)				
情報リテラシー I	情報リテラシー II				
国際キャリア開発A	国際キャリア開発B	国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B	国際キャリア演習A	国際キャリア演習B

※外国人留学生の場合、これらに加えて、日本語Ⅰ～Ⅵがクラス指定されている場合があります。

⑤ 事前登録が必要な科目があります。

次の科目については、原則として事前登録が必要です。事前登録科目の募集については、別途案内します。

国際学部専門教育科目	専門演習ⅠA・B 専門演習ⅡA・B 専門演習ⅢA・B
------------	----------------------------------

⑥ Web履修登録後、第1回目の授業で履修者を選考する科目があります。

下記の科目については、第1回目の授業で履修者を選考します。選考にもれた学生の履修は取り消されます。指定された履修変更期間内に変更してください。また、第1回目授業を欠席した場合も履修辞退とみなして履修は取り消されます。

共通教育科目	文章表現入門
--------	--------

※上記以外の科目についても選考をおこなう場合があります。掲示板等で確認してください。

⑦ 履修登録期間を過ぎると履修登録できません

登録期間を過ぎると、履修登録はできません。病気やその他やむを得ない理由で、所定の期日に履修登録ができない場合は、花岡キャンパス教務課、八尾駅前キャンパス1階事務室に申し出て指示を受けてください。

(2) 演習履修

演習は原則として、事前登録科目です。毎年秋学期に次年度クラス（予定）の事前登録者の募集を行っています。演習は大学の学修活動の中心となる場ですので、必ず、進路選択とあわせて、希望クラスの選択・登録を行ってください。

《事前登録の対象となる演習》

◆專門演習ⅠA・B、ⅡA・B、ⅢA・B

配当学年	科 目	単 位 等
2年生	専門演習ⅠA・ⅠB	各2単位(春・秋連続)
3年生	専門演習ⅡA・ⅡB	各2単位(春・秋連続)
4年生	専門演習ⅢA・ⅢB	各2単位(春・秋連続)

《履修上の注意》

- ① 各演習は、所定の事前申込手続きをとり許可された者に限って履修することができます。
※演習の種別により手続き方法は異なります。演習募集ガイダンス等には必ず出席し、確認してください。
- ② 専門演習ⅠＡ・ⅠＢ、ⅡＡ・ⅡＢ、ⅢＡ・ⅢＢは、同一担当教員による春学期・秋学期連続の通年演習です。
- ③ 専門演習ⅠＡ・ⅠＢ、専門演習ⅡＡ・ⅡＢのテーマ・内容は担当教員によって異なります。シラバス等をよく読み、自己の興味・関心、所属コースや志望進路に合った演習を選択してください。

《各演習の関係》

2年生、3年生の演習は、各学年の専門演習（専門演習ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB）に加えて、国際キャリアデザイン演習A・B、国際キャリア演習A・BのWゼミとなります。

2年生	専門演習ⅠA・B + 国際キャリアデザイン演習A・B
3年生	専門演習ⅡA・B + 国際キャリア演習A・B

(3) 海外語学研修、フィールド・プロジェクトI・IIの履修

海外語学研修、フィールド・プロジェクトⅠは、1年次の選択必修科目です。1年次に必ずいずれかの単位修得を行う必要があります。

1 年次春学期の履修方法等は以下のとおりです。詳細については、基礎演習担当教員から説明を行います。

- 1) 1 年次春学期には、国際学部 1 年生全員、フィールド・プロジェクト I の履修が事前登録されています。
- 2) 4～5 月に、基礎演習クラスにおいて、以下のいずれかを選択します。
 - ① 海外語学研修（夏季または春季）
 - ② 夏季のフィールド・プロジェクト I
 - ③ 春季のフィールド・プロジェクト I
- 3) ①～③ごとに、学修や履修変更を行います。
 - ①の場合
 - ・春学期のフィールド・プロジェクト I の履修登録は削除されます。
 - ・夏季または春季の海外語学研修に参加してください。
 - ②の場合
 - ・6 月以降、夏季のフィールド・プロジェクト I の事前学修が始まります。
 - ③の場合
 - ・春学期のフィールド・プロジェクト I の履修登録は削除されます。
 - ・あらためて、秋学期のフィールド・プロジェクト I の履修が事前登録されます。
 - ・11 月以降、春季のフィールド・プロジェクト I の事前学修が始まります。

(4) 履修取り消し制度

履修取り消し制度とは

学期の途中で、単位修得および高い成績評価を見込めない等の理由で、GPAポイントの低下が予想される場合にかぎり、履修の取り消しを認めます（取り消し期間は別途掲示）。ただし、科目の追加、変更は認められません。

※GPAポイントについては、P19を参照。

履修取り消しができない場合

履修を取り消すことにより、履修登録科目のすべてがなくなる場合は、履修の取り消しができません。

履修取り消しができない科目

次の科目は履修取り消しができません。

- ① 必修科目（必修となる外国語の科目、基礎演習A・B）
② 事前登録する科目（専門演習ⅠA・ⅠB、専門演習ⅡA・ⅡB、専門演習ⅢA・ⅢB）

(5) 履修登録した授業の教科書購入

必修科目やクラス指定の外国語科目等の教科書などは、シラバスに基づき第一回目の授業までに購入しておいてください。その他の授業は、シラバスを参照するとともに、まず授業に出て担当教員の指示やアドバイスを聞いてください。購入は、花岡キャンパスの「丸善キャンパスショップ」（図書館別館1階）を利用してください。（なお、八尾駅前キャンパスでも、期間限定で教科書販売コーナーを設け、販売します。）

(1) 学修における注意点

単位の認定

編入生の皆さんは、本学に編入学した際、60単位を上限として単位の認定がなされています。但し、認定単位数は、それぞれの提出された成績証明書に基づいておこなっており、学生によって異なる場合があります。各自、必ず編入学時に認定された単位数から、卒業に必要な単位を確認し、それぞれに必要な学修を進めるようにしてください。

学修にあたっての注意点等

編入生の皆さんは、本学入学時に60単位を上限とした単位認定がされており、カリキュラムおよび卒業要件等は、編入学を許可された年次に所属する学生と同一の規定が適用されます。

まず、希望する進路や関心に応じて、コース選択を行い、次ページの卒業要件を念頭におきながら、所属学部の特設教育科目を中心に履修・修得しなければなりません。また、1年次に配当される次の科目については、卒業に要する科目となるため、必ず履修するようにしてください。

- 専門基礎科目において、「Intensive English W/R I」、「Intensive English W/R II」、「Intensive English L/S I」、「Intensive English L/S II」の4科目8単位。
- 演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位。
- 留学・体験科目において、「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトI」のいずれか1科目2単位。

(2) 履修制限単位

編入生の履修制限単位数は、次の通りです。履修単位数は、年間および学期毎に履修の単位制限が設けられていますので、2年間の学修計画をしっかりと立てて単位を修得してください。

学年	3年次		4年次	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
年間制限単位	60単位		60単位	
学期制限単位	30単位	30単位	30単位	30単位

(3) 卒業要件（編入学生用）

本学3年次に編入学し、2年以上在学して所定の単位を修得したものについては「学士」の学位が授与されます。ただし、6年を越えて在学することは許されません。単位認定については、出身校の修得科目の内容や単位数に応じて、60単位を上限として単位を認定し、本学部卒業に必要な単位数のうちに算入します。

卒業に要する単位は次のとおりです。

授業科目	卒業に要する単位	
共通教育科目	—	14単位以上
専門教育科目	○必修要件 ・専門基礎科目において、「Intensive English W/R I」、「Intensive English W/R II」、「Intensive English L/S I」、「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含め20単位以上を修得すること。 ・専門発展科目において、国際理解科目群から10単位以上を修得すること。 ・国際コミュニケーションコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R I」、「Advanced English W/R II」、「Advanced English L/S I」、「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から30単位以上、国際ビジネス関連科目群から10単位以上を修得すること。 ・グローバルキャリアコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R I」、「Advanced English W/R II」、「Advanced English L/S I」、「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から10単位以上、国際ビジネス関連科目群から30単位以上を修得すること。 ・演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において、「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトI」のいずれか1科目2単位を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目 又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位	20単位以上
合 計		124単位

国際コミュニケーションコースの卒業要件単位

科目区分			必修	選択	必修及び 選択の合計	
共通教育科目			—	14	14	
専門教育科目	専門基礎科目		8	12	14※	90
	専門 発展 科目	国際理解科目群	—	10		
		コミュニケーション科目群	8	22		
		国際ビジネス関連科目群	—	10		
	演習科目		4	—		
	留学・体験科目		—	2		
	キャリア形成科目		—	—		
共通教育科目及び専門教育科目			—	20	20	
卒業要件単位合計			20	104	124	

※左記に加え、専門基礎科目、専門発展科目、演習科目、留学・体験科目及びキャリア形成科目の中から14単位以上を修得すること。

グローバルキャリアコースの卒業要件単位

科目区分			必修	選択	必修及び 選択の合計	
共通教育科目			—	14	14	
専門教育科目	専門基礎科目		8	12	14※	90
	専門発展科目	国際理解科目群	—	10		
		コミュニケーション科目群	8	2		
		国際ビジネス関連科目群	—	30		
	演習科目		4	—		
	留学・体験科目		—	2		
	キャリア形成科目		—	—		
共通教育科目及び専門教育科目			—	20	20	
卒業要件単位合計			20	104	124	

※左記に加え、専門基礎科目、専門発展科目、演習科目、留学・体験科目及びキャリア形成科目の中から14単位以上を修得すること。

(1) 成績評価の方法

成績評価は、試験その他平素の成績を総合して行われます。また、科目や担当者により評価方法、評価基準が異なります。各科目の評価方法については「シラバス（授業要綱）」を参照してください。

(2) 成績評価の基準等

成績は、最高評点を100点、合格点を60点以上とし、成績評価の評語、GP（Grade Point）、評点及び基準は、次のとおりとなります。ただし、編入学により単位を認定した科目の評価は、「認定」とし、履修を取り消した科目は、「辞退」となります。

評語		GP	評点	評価基準
秀	S	4	90点以上	各授業科目に定める学修の到達目標を達成し、特に優れた成果を修めている。
優	A	3	80点以上89点以下	各授業科目に定める学修の到達目標を達成し、優れた成果を修めている。
良	B	2	70点以上79点以下	各授業科目に定める学修の到達目標を達成し、良好な成果を修めている。
可	C	1	60点以上69点以下	各授業科目に定める学修の到達目標を達成している。
不可	D	0	59点以下	各授業科目に定める学修の到達目標を達成していない。
辞退	W	—	—	—
認定	N	—	—	—

成績発表時に交付する成績通知書には、可否に関係なく当該学期に履修したすべての評価が記載されますが、対外的に利用する証明書（就職活動等で企業に提出する「成績証明書」等）には合格した科目、認定された科目のみが記載され不合格となった科目は記載されません。

(3) GPA制度

成績は、GPA（Grade Point Average）制度により、次の基準によって評価されます。学生の履修した科目の評点（100点満点）を、GPに換算し、その合計を履修科目の総単位数で割った数値により表示します。ただし、卒業に要する単位に含まれない科目については、GPAの算定には含めません。

GPA制度では、履修登録したすべての科目が算定対象となります。不合格となった科目や受験を放棄したため不合格となった科目は「0」ポイントとしてカウントされるため、全体のGPAが低下する原因となります。奨学金や海外留学の申請等の際に必要な場合がありますので、計画的な学習が求められます。

$$\text{GPA} = (\text{履修科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和} \div (\text{履修科目の総単位数})$$

(4) 成績発表

合格した科目の単位は各学期末に認定されます。したがって学期途中で退学したり除籍となった場合、その学期で履修し試験に合格していても単位は認定されません。

成績発表は春学期は9月中旬、秋学期は3月中旬におこなわれます（自宅に送付）。ただし4年生の秋学期の成績発表については2月中旬におこなわれます（学内交付）。詳細については、掲示板、UNIVERSAL PASSPORT等で確認してください。

(5) 成績質問

成績評価の内容に質問がある場合は、各学期の成績発表後に設けられた「成績質問期間」に、所定の「成績に関する質問票」を用いて授業科目担当者に質問することができます。なお、質問の理由が明確に記入されていない質問票や、受付期間を過ぎた場合は一切受け付けませんので注意してください。また、成績質問期間については、キャンパス内掲示板及びUNIVERSAL PASSPORT等でお知らせいたします。

Ⅱ 国 際 学 部
国 国 際 学 部
教 育 課 科 程

1 卒業要件

(1) 国際学部卒業要件

2019年度～2016年度入学生

授業科目	卒業に要する単位	
共通教育科目	－	14単位以上
専門教育科目	○必修要件 ・専門基礎科目において「Intensive English W/R I」、「Intensive English W/R II」、「Intensive English L/S I」、「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。 ・専門発展科目において、国際理解科目群から10単位以上修得すること。 ・国際コミュニケーションコースを選択したものは、専門発展科目において、「Advanced English W/R I」、「Advanced English W/R II」、「Advanced English L/S I」、「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から30単位以上、国際ビジネス関連科目群から10単位以上を修得すること。 ・グローバルキャリアコースを選択したものは、専門発展科目において「Advanced English W/R I」、「Advanced English W/R II」、「Advanced English L/S I」、「Advanced English L/S II」の4科目8単位を含めコミュニケーション科目群から10単位以上、国際ビジネス関連科目群から30単位以上を修得すること。 ・演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。 ・留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトI」のいずれか1科目2単位を修得すること。	90単位以上
その他共通教育科目 又は専門教育科目	○共通教育科目及び専門教育科目から20単位	20単位以上
合 計		124単位

(2) 共通教育科目

○卒業するには、共通教育科目より、14単位以上修得すること。

(3) 専門教育科目

○卒業するには、専門教育科目より、90単位以上修得すること。ただし、次の各要件を満たすこと。

専門基礎科目

○専門基礎科目において「Intensive English W/R I」、「Intensive English W/R II」、「Intensive English L/S I」、「Intensive English L/S II」の4科目8単位を含めて20単位以上を修得すること。

必修科目(4科目8単位必修)	選択必修(12単位以上)			
Intensive English W/R I	異文化理解	日本史概論Ⅰ・Ⅱ	世界史概論Ⅰ・Ⅱ	国際政治学Ⅰ
Intensive English W/R II	国際社会と法	市民社会と法	日本と国際法	Exam Prep. Ⅰ・Ⅱ
Intensive English L/S I	情報リテラシーⅠ・Ⅱ	メディアリテラシー	コミュニケーション論	ミクロ経済学Ⅰ
Intensive English L/S II	マクロ経済学Ⅰ	経営学概論	国際ビジネス概論	

=20単位以上

専門発展科目(国際理解科目群)

○専門発展科目の国際理解科目群から10単位以上修得すること。

選択必修(10単位以上)
日本文化論、比較文化論、多文化共生社会論、Japanese Culture、Japanese History、Japanese Society、Japanese Geography、Japanese Law and Society、Comparative Culture、Comparative Legal System、ジェンダー論、宗教学、社会思想史、アジア史、アメリカ史、アメリカ外交史、ヨーロッパ史、現代中国事情、現代東南アジア事情、現代オセアニア事情、現代アメリカ事情、現代ヨーロッパ事情、現代中東事情、Regional Studies (Asia)、Regional Studies (Oceania)、Regional Studies (America)、Regional Studies (Europe)、国際政治学Ⅱ、国際関係論、安全保障と国際法、核問題と安全保障、国際紛争の平和的解決と国際法、International Relations and Law(Introduction to International Law)、国際協力法、国際人権法、国際社会と人の移動、International Migration、Multiculturalism in Modern Society、異文化適応論、政治地理学、NPO・NGO論、地方自治と国際協力、国際機構論、比較税制論、社会保障の国際比較、都市計画の国際比較、資源・エネルギー論

コースにおける必修科目・選択必修科目

○次の各コースの要件を満たすこと。

●国際コミュニケーションコース

コミュニケーション科目群 (30単位以上)	○必修科目 (4科目8単位) Advanced English W/R I Advanced English W/R II Advanced English L/S I Advanced English L/S II	○選択必修(22単位以上) Academic Writing Ⅰ・Ⅱ、Business Communication Ⅰ・Ⅱ、Exam Prep. Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ、Current Affairs、Readings for Global Issues Ⅰ・Ⅱ、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーション技法Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、ことばと文化、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
国際ビジネス関連科目群 (10単位以上)	○選択必修(10単位以上) ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、経済政策概論、国際経済学概論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法(契約と決済)、国際取引と法(紛争処理)、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論	

●グローバルキャリアコース

コミュニケーション科目群 (10単位以上)	○必修科目 (4科目8単位) Advanced English W/R I Advanced English W/R II Advanced English L/S I Advanced English L/S II	○選択必修(2単位以上) Academic Writing Ⅰ・Ⅱ、Business Communication Ⅰ・Ⅱ、Exam Prep. Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ、Current Affairs、Readings for Global Issues Ⅰ・Ⅱ、翻訳実践、観光英語、貿易英語、日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーション技法Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、テクニカルライティング、情報セキュリティ論、ビジネスアプリケーション、クラウド活用実践、データマイニング、Webデザイン実践、メディア論、グローバル化とメディア、ソーシャルメディア論、メディアと広告、ジャーナリズム論、ことばと文化、社会心理学、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション実践、ディベート実践、ビジネス交渉
国際ビジネス関連科目群 (30単位以上)	○選択必修(30単位以上) ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、経済政策概論、国際経済学概論、国際金融概論、比較経済論、Japanese Economy、中国経済論、東南アジア経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、ロシア経済論、航空経済論、Contemporary Economic Issues、経営管理概論、経営戦略論、Business Management、会計学概論、税法、国際会計論、経営情報概論、マーケティング論、流通システム論、ビジネス統計、国際経営論、外国為替論、貿易商務論、貿易金融論、国際取引と法(契約と決済)、国際取引と法(紛争処理)、国際ビジネスと知的財産、観光概論、観光資源論、国際観光論、航空実務、クルーズ・ビジネス論、ホスピタリティ論、Tourism and World Heritages、医療ビジネス論	

演習科目

○演習科目において、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目4単位を修得すること。

基礎演習A	基礎演習B
-------	-------

留学・体験科目

○留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトI」のいずれか1科目2単位を修得すること。

海外語学研修	または、	フィールド・プロジェクトI
--------	------	---------------

(4) その他共通教育科目又は専門教育科目

○卒業するには、その他(共通教育科目及び専門教育科目)より20単位以上修得すること。

共通教育科目 (14単位)	+	専門教育科目 (90単位)	+	その他共通教育科目又は専門教育科目 (20単位)	=124単位
------------------	---	------------------	---	-----------------------------	--------

①国際コミュニケーションコース 履修系統図

		1 年次			2 年次				3 年次			4 年次														
	科目区分別の学修目標	第1セメスター	夏季	第2セメスター	第3セメスター	夏季	第4セメスター		第5セメスター	夏季	第6セメスター	第7セメスター	夏季	第8セメスター												
演習関連	❶ 複数国・複数回の多様な海外体験・留学を基に、異なる価値観や文化的背景をもつ他者を理解し、協働することができる。 ❷ 修得した知識を主体的に応用し、「課題発見力」、「分析力」、「解決力」を身につけ、それぞれの課題に取り組むことができる。	基礎演習 A (必修)		基礎演習 B (必修)	コース選択 専門演習Ⅰ A		専門演習Ⅰ B		専門演習Ⅱ A		専門演習Ⅱ B	専門演習Ⅲ A		専門演習Ⅲ B												
必修 外国語	❶ 国際コミュニケーションに必要な英語のコミュニケーションスキルを身につける。 ❷ 実践に役立つスキルの修得を主軸として、「使える英語」の基本4技能である「聞く」「話す」「読む」「書く」ことを駆使することができる。	Intensive English W/RⅠ Intensive English L/SⅠ (※両科目必修)	→ →	Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ (※両科目必修)	Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ (※両科目必修)	→ →	Advanced English W/RⅡ Advanced English L/SⅡ (※両科目必修)																			
専門基礎 科目	❶ 専門的な学修をするにあたって必要な基礎的知識を身につける。	※第1～4セメスターのあいだに履修することが望ましい：12単位以上選択 【国際理解科目関連】 異文化理解 市民社会と法 日本史概論Ⅰ→日本史概論Ⅱ 世界史概論Ⅰ→世界史概論Ⅱ 国際政治学Ⅰ 【コミュニケーション科目関連】 情報リテラシーⅠ→情報リテラシーⅡ コミュニケーション論 Exam Prep.Ⅰ→Exam Prep.Ⅱ 【国際ビジネス科目関連】 ミクロ経済学Ⅰ→マクロ経済学Ⅰ																								
専門発展 科目	❶ 発展学修により「専門基礎科目」で修得した知識を拡充する。 ❷ 学際的かつ複合的な専門学修により「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」を身につける。				※第3～8セメスターのあいだに履修：合計42単位以上選択 【国際理解科目群】(※10単位以上選択) 日本文化論→比較文化論 Japanese History Japanese Geography 国際関係論 NPO・NGO論 国際社会と人の移動 地方自治と国際協力 【コミュニケーション科目群】(※22単位以上選択) Exam Prep.Ⅲ→Exam Prep.Ⅳ 日本語文章表現Ⅰ→日本語文章表現Ⅱ 異文化コミュニケーション ことばと文化 メディア論→グローバル化とメディア 情報セキュリティ論 【国際ビジネス関連科目群】(※10単位以上選択) <経済系科目> 経済政策概論 <経営系科目> 国際経営論 観光概論→観光資源論 多文化共生社会論 現代中国事情 現代アメリカ事情 都市計画の国際比較 Academic WritingⅠ→Academic WritingⅡ Business CommunicationⅠ→Business CommunicationⅡ Exam Prep.Ⅴ 翻訳実践 観光英語 プレゼンテーション実践 Comprehensive EnglishⅠ→Comprehensive EnglishⅡ Current Affairs Exam Prep.Ⅵ ディベート実践 Japanese Economy 中国経済論 Contemporary Economic Issues 国際観光論→Tourism and World Heritages ホスピタリティ論→航空実務																					
留学・ 体験科目	❶ 海外での学修や生活、種々の活動と実体験をとおして、国際理解を深め、国際性を身につける。 ❷ 言語・文化が異なる人々と様々な形のコミュニケーションを通して豊かな関係を構築することができる。	海外語学研修、フィールド・プロジェクトⅠ ※いずれか1科目2単位を選択必修									フィールド・プロジェクトⅡ															
キャリア 形成科目	❶ 自身のキャリアイメージを確立し、卒業後に必要な就業力を身につける。 ❷ グローバル人材が求められる業界・業種の現状と課題を考察し、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定することができる。	国際キャリア開発A		国際キャリア開発B	国際キャリアデザイン演習A	インター シップ	国際キャリアデザイン演習B		国際キャリア演習A		国際キャリア演習B															
共通教育 科目	❶ 多角的な視野を持つための幅広い教養を身につける。	文章表現入門、地域文化論、地理学、心理学、日本国憲法、現代社会学、現代社会とビジネス、共通教育科目から、日本近現代史、社会学、言語学、環境と社会、地球と環境、人権の諸問題、海運と港湾、ビジネスリテラシー、環境と生態、環境と経営14単位以上の修得が卒業にとって必要である。																								
学修目標		1 年次の学修目標 ▷ 世界に対して関心を持ち、異文化への気づきを得る。 ▷ 国際理解の基礎的要素に関する知識を修得する。 ▷ 読み書きスキル、ICTスキル、分析しまとめ上げる力等の汎用的技能を身につける。 ▷ 外国語の基礎を定着させる。 ▷ 専門の基礎知識を修得する。 ▷ キャリアに関する意識を醸成させ、将来の希望進路に適したコース内容を理解する。			2 年次の学修目標(学部共通) ▷ 国際社会への興味関心を深める。 ▷ 各科目群の専門的知識を拡充させる。 ▷ 海外体験や留学を通じて、主体性を身につける。 ▷ キャリアに関する意識を高める。 ▷ インターンシップに参加する。				3 年次の学修目標(学部共通) ▷ 課題研究を意識した各種情報を獲得する。 ▷ 海外体験や留学を通じて、課題解決能力を高める。 ▷ キャリアに関する意識を具体化し行動する。 ▷ 国際社会に関する専門知識を拡充する。 ▷ 英語による実践的コミュニケーション能力を養成する。			4 年次の学修目標(学部共通) ▷ 課題研究を推進させ、卒業レポート等を完成させる。 ▷ 社会人として必要な心得を修得する。 ▷ 進路に関する専門知識を拡充させる。														
					2 年次の学修目標(国際コミュニケーションコース) ▷ コミュニケーション能力を高める。				3 年次の学修目標(国際コミュニケーションコース) ▷ 英語での専門科目の学修を通じて、英語の能力の向上と英文のリソースから必要な情報を収集できるようにする。			4 年次の学修目標(国際コミュニケーションコース) ▷ 国際コミュニケーション関連の研究発表を行う。														

②グローバルキャリアコース 履修系統図

		1 年次			2 年次				3 年次			4 年次																
	科目区分別の学修目標	第1セメスター	夏季	第2セメスター	第3セメスター	夏季	第4セメスター		第5セメスター	夏季	第6セメスター	第7セメスター	夏季	第8セメスター														
演習関連	❶ 複数国・複数回の多様な海外体験・留学を基に、異なる価値観や文化的背景をもつ他者を理解し、協働することができる。 ❷ 修得した知識を主体的に応用し、「課題発見力」、「分析力」、「解決力」を身につけ、それぞれの課題に取り組むことができる。	基礎演習 A（必修）		基礎演習 B（必修）	コース選択 専門演習Ⅰ A		専門演習Ⅰ B		専門演習Ⅱ A		専門演習Ⅱ B	専門演習Ⅲ A		専門演習Ⅲ B														
必修 外国語	❶ 国際コミュニケーションに必要な英語のコミュニケーションスキルを身につける。 ❷ 実践に役立つスキルの修得を主軸として、「使える英語」の基本4技能である「聞く」「話す」「読む」「書く」ことを駆使することができる。	Intensive English W/RⅠ Intensive English L/SⅠ （※両科目必修）	→ →	Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ （※両科目必修）	Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ （※両科目必修）	→ →	Advanced English W/RⅡ Advanced English L/SⅡ （※両科目必修）																					
専門基礎 科目	❶ 専門的な学修をするにあたって必要な基礎的知識を身につける。	※第1～4セメスターのあいだに履修することが望ましい：12単位以上選択 【国際理解科目関連】 異文化理解 国際社会と法 日本史概論Ⅰ→日本史概論Ⅱ 世界史概論Ⅰ→世界史概論Ⅱ 国際政治学Ⅰ 【コミュニケーション科目関連】 情報リテラシーⅠ→情報リテラシーⅡ コミュニケーション論 Exam Prep.Ⅰ→Exam Prep.Ⅱ 【国際ビジネス科目関連】 <経済系>ミクロ経済学Ⅰ→マクロ経済学Ⅰ <経営系>経営学概論→国際ビジネス概論																										
専門発展 科目	❶ 発展学修により「専門基礎科目」で修得した知識を拡充する。 ❷ 学際的かつ複合的な専門学修により「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」を身につける。				※第3～8セメスターのあいだに履修：合計42単位以上選択 【国際理解科目群】（※10単位以上選択） 比較文化論 宗教学 国際関係論 NPO・NGO論 比較税制論 【コミュニケーション科目群】（※2単位以上選択） Exam Prep.Ⅲ → Exam Prep.Ⅳ 日本語文章表現Ⅰ → 日本語文章表現Ⅱ 【国際ビジネス関連科目群】（※30単位以上選択） <経済系科目> ミクロ経済学Ⅱ マクロ経済学Ⅱ 比較経済論 → 国際経済学概論 国際金融概論 <経営系科目> 国際経営論 経営管理概論 → 経営戦略論 会計学概論 マーケティング論 → 流通システム論 現代アメリカ事情 現代中国事情 現代中東事情 現代東南アジア事情 → Regional Studies（Asia） 国際協力法 → 国際機構論 Business CommunicationⅠ → Business CommunicationⅡ プレゼンテーション実践 → ディベート実践 ビジネスアプリケーション Japanese Economy 中国経済論 東南アジア経済論 アメリカ経済論 Contemporary Economic Issues 外国為替論 貿易商務論 医療ビジネス論 経営情報概論 税法 国際取引と法（契約と決済） → 国際取引と法（紛争処理） 留学・ 体験科目										❶ 海外での学修や生活、種々の活動と実体験をとおして、国際理解を深め、国際性を身につける。 ❷ 言語・文化が異なる人々と様々な形のコミュニケーションを通して豊かな関係を構築することができる。	海外語学研修、フィールド・プロジェクトⅠ ※いずれか1科目2単位を選択必修									フィールド・プロジェクトⅡ			
キャリア 形成科目	❶ 自身のキャリアイメージを確立し、卒業後に必要な就業力を身につける。 ❷ グローバル人材が求められる業界・業種の現状と課題を考察し、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定することができる。	国際キャリア開発A		国際キャリア開発B	国際キャリアデザイン演習A（インターンシップ）		国際キャリアデザイン演習B		国際キャリア演習A		国際キャリア演習B																	
共通教育 科目	❶ 多角的な視野を持つための幅広い教養を身につける。	文章表現入門、日本近現代史、心理学、現代社会とビジネス、現代社会学、共通教育科目から、社会学、日本近現代史、環境と経営、環境と社会、人権の諸問題、ビジネスリテラシー、海運と港湾、地球と環境 14単位以上の修得が卒業にとって必要である。																										
学修目標		1 年次の学修目標 ▷ 世界に対して関心を持ち、異文化への気づきを得る。 ▷ 国際理解の基礎的要素に関する知識を修得する。 ▷ 読み書きスキル、ICTスキル、分析しまとめ上げる力等の汎用的技能を身につける。 ▷ 外国語の基礎を定着させる。 ▷ 専門の基礎知識を修得する。 ▷ キャリアに関する意識を醸成させ、将来の希望進路に適したコース内容を理解する。			2 年次の学修目標(学部共通) ▷ 各科目群の専門的知識を拡充させる。 ▷ 海外体験や留学を通じて、主体性を身につける。 ▷ キャリアに関する意識を高める。 ▷ 国際社会への興味関心を深める。 ▷ インターンシップに参加する。				3 年次の学修目標(学部共通) ▷ 課題研究を意識した各種情報を獲得する。 ▷ 海外体験や留学を通じて、課題解決能力を高める。 ▷ キャリアに関する意識を具体化し行動する。 ▷ 国際社会に関する専門知識を拡充する。 ▷ 英語による実践的コミュニケーション能力を養成する。			4 年次の学修目標(学部共通) ▷ 課題研究を推進させ、卒業レポート等を完成させる。 ▷ 社会人として必要な心得を修得する。 ▷ 進路に関する専門知識を拡充させる。																
					2 年次の学修目標(グローバルキャリアコース) ▷ 企業の国際ビジネス業務に必要な基礎知識を修得する。				3 年次の学修目標(グローバルキャリアコース) ▷ 実践的・能動的な取組を通じ、課題解決能力を高める。 ▷ 国際ビジネスに関する専門科目を学修する。			4 年次の学修目標(グローバルキャリアコース) ▷ グローバルキャリア関連の研究発表を行う。																

(1) 共通教育科目一覧表

区分	科目	単位	グレードG	配当年次				備考
共通教育科目	文章表現入門	2	G1	1				
	基礎体育A	1	G1	1				
	基礎体育B	1	G1	1				
	哲学	2	G2	1	2	3	4	
	日本史	2	G2	1	2	3	4	
	日本近現代史	2	G2	1	2	3	4	
	西洋史	2	G2	1	2	3	4	
	考古学	2	G2	1	2	3	4	
	文化人類学	2	G2	1	2	3	4	
	文学	2	G2	1	2	3	4	
	言語学	2	G2	1	2	3	4	
	教育学	2	G2	1	2	3	4	
	心理学	2	G2	1	2	3	4	
	日本国憲法	2	G2	1	2	3	4	
	法学	2	G2	1	2	3	4	
	政治学	2	G2	1	2	3	4	
	経済学	2	G2	1	2	3	4	
	地理学	2	G2	1	2	3	4	
	社会学	2	G2	1	2	3	4	
	日本事情入門	2	G1	1	2	3	4	留学生科目
	現代日本事情	2	G1	1	2	3	4	留学生科目
	科学技術史	2	G2	1	2	3	4	
	化学と生活	2	G2	1	2	3	4	
	統計学Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	統計学Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	情報システム論	2	G2	1	2	3	4	
	ソフトウェア論	2	G2	1	2	3	4	
	ネットワーク論	2	G2	1	2	3	4	
	ワープロ実践	2	G2	1	2	3	4	
	表計算実践	2	G2	1	2	3	4	
	データベース実践	2	G2	1	2	3	4	
	デジタルプレゼンテーション	2	G2	1	2	3	4	
	ワープロ応用	2	G2		2	3	4	
	表計算応用	2	G2		2	3	4	
	プログラミング実践	2	G2		2	3	4	
	情報科学演習	2	G2		2	3	4	
	環境論	2	G2	1	2	3	4	
	環境フィールドスタディⅠ	2	G2	1	2	3	4	
	環境フィールドスタディⅡ	2	G2	1	2	3	4	
	平和学	2	G2	1	2	3	4	
	マスコミ論	2	G2	1	2	3	4	
	地域文化論	2	G2	1	2	3	4	
	芸術学	2	G2	1	2	3	4	
	河内学	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会学	2	G2	1	2	3	4	

区分	科目	単位	グレードG	配当年次				備考
共通教育科目	現代社会と人権	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と教育	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と健康	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と日本語	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と科学	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会とビジネス	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会と観光	2	G2	1	2	3	4	
	現代社会とメディア	2	G2	1	2	3	4	
	人権の諸問題	2	G2		2	3	4	
	海運と港湾	2	G2		2	3	4	
	日本の水産業と世界の水産業	2	G2		2	3	4	
	日本の農業	2	G2		2	3	4	
	世界の農業	2	G2		2	3	4	
	地球と環境	2	G2		2	3	4	
	環境と経営	2	G2		2	3	4	
	環境と社会	2	G2		2	3	4	
	環境と海洋	2	G2		2	3	4	
	環境と生態	2	G2		2	3	4	
	環境保全論	2	G2		2	3	4	
	環境演習A	2	G2		2	3	4	
	環境演習B	2	G2		2	3	4	
	ビジネスリテラシー	2	G2		2	3	4	
	総合演習a	2	G2		2	3	4	
	総合演習b	2	G2		2	3	4	
	フランス語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	フランス語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	中国語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	中国語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	韓国語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	韓国語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	ロシア語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	
	ロシア語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	
	日本語Ⅰ	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語Ⅱ	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語Ⅲ	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語Ⅳ	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語Ⅴ	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語Ⅵ	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	中国語総合演習A	2	G2	1	2	3	4	
	中国語総合演習B	2	G2	1	2	3	4	
	ロシア語総合演習A	2	G2	1	2	3	4	
	ロシア語総合演習B	2	G2	1	2	3	4	
	日本語総合演習A	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語総合演習B	2	G2	1	2	3	4	留学生科目
	中国語会話	1	G2	1	2	3	4	
	韓国語会話	1	G2	1	2	3	4	

区分	科目	単位	グレードG	配当年次				備考
共通教育科目	日本語読解	1	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語会話	1	G2	1	2	3	4	留学生科目
	日本語表現	1	G2	1	2	3	4	留学生科目
	中国語コミュニケーション演習	4	G2		2	3	4	
	韓国語コミュニケーション演習	4	G2		2	3	4	
	健康科学論	2	G2	1	2	3	4	
	心とからだの病理学	2	G2	1	2	3	4	
	身体運動科学	2	G2	1	2	3	4	
	スポーツ論	2	G2	1	2	3	4	
	生涯スポーツA	1	G2	1	2	3	4	
	生涯スポーツB	1	G2	1	2	3	4	
	フィットネス実習A	1	G2	1	2	3	4	
	フィットネス実習B	1	G2	1	2	3	4	
	トレーニング演習A	2	G2	1	2	3	4	
	トレーニング演習B	2	G2	1	2	3	4	
	身体管理論	2	G2	1	2	3	4	
	スポーツ指導論	2	G2	1	2	3	4	
	スポーツ管理論	2	G2	1	2	3	4	

(2) 国際学部国際学科専門教育科目一覧表

区分	科目	単位	グレードG	配当年次				備考		
専門教育科目	専門基礎科目	異文化理解	2	G1	1	2	3	4		
		日本史概論Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		日本史概論Ⅱ	2	G1	1	2	3	4		
		世界史概論Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		世界史概論Ⅱ	2	G1	1	2	3	4		
		国際政治学Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		国際社会と法	2	G1	1	2	3	4		
		市民社会と法	2	G1	1	2	3	4		
		日本と国際法	2	G1	1	2	3	4		
		Intensive English W/RⅠ	2	G1	1	2	3	4	必修科目	
		Intensive English W/RⅡ	2	G1	1	2	3	4	必修科目	
		Intensive English L/SⅠ	2	G1	1	2	3	4	必修科目	
		Intensive English L/SⅡ	2	G1	1	2	3	4	必修科目	
		Exam Prep.Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		Exam Prep.Ⅱ	2	G1	1	2	3	4		
		情報リテラシーⅠ	2	G1	1	2	3	4		
		情報リテラシーⅡ	2	G1	1	2	3	4		
		メディアリテラシー	2	G1	1	2	3	4		
		コミュニケーション論	2	G1	1	2	3	4		
		ミクロ経済学Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		マクロ経済学Ⅰ	2	G1	1	2	3	4		
		経営学概論	2	G1	1	2	3	4		
		国際ビジネス概論	2	G1	1	2	3	4		
		専門発展科目	国際理解科目群	日本文化論	2	G2		2	3	4
	比較文化論			2	G2		2	3	4	
	多文化共生社会論			2	G3			3	4	
	Japanese Culture			2	G2		2	3	4	
	Japanese History			2	G2		2	3	4	
	Japanese Society			2	G2		2	3	4	
	Japanese Geography			2	G2		2	3	4	
	Japanese Law and Society			2	G3			3	4	
	Comparative Culture			2	G3			3	4	
	Comparative Legal System			2	G3			3	4	
ジェンダー論	2			G2		2	3	4		
宗教学	2			G2		2	3	4		
社会思想史	2			G2		2	3	4		
アジア史	2			G2		2	3	4		
アメリカ史	2			G2		2	3	4		
アメリカ外交史	2			G3			3	4		
ヨーロッパ史	2			G2		2	3	4		

区分	科目	単位	グレードG	配当年次	備考
国際理解科目群	現代中国事情	2	G3	3 4	
	現代東南アジア事情	2	G3	3 4	
	現代オセアニア事情	2	G3	3 4	
	現代アメリカ事情	2	G3	3 4	
	現代ヨーロッパ事情	2	G3	3 4	
	現代中東事情	2	G3	3 4	
	Regional Studies(Asia)	2	G3	3 4	
	Regional Studies(Oceania)	2	G3	3 4	
	Regional Studies(America)	2	G3	3 4	
	Regional Studies(Europe)	2	G3	3 4	
	国際政治学Ⅱ	2	G2	2 3 4	
	国際関係論	2	G2	2 3 4	
	安全保障と国際法	2	G2	2 3 4	
	国際紛争の平和的解決と国際法	2	G2	2 3 4	
	核問題と安全保障	2	G3	3 4	
	International Relations and Law (Introduction to International Law)	2	G2	2 3 4	
	国際協力法	2	G3	3 4	
	国際人権法	2	G3	3 4	
	国際社会と人の移動	2	G2	2 3 4	
	International Migration	2	G2	2 3 4	
	Multiculturalism in Modern Society	2	G2	2 3 4	
	異文化適応論	2	G2	2 3 4	
	政治地理学	2	G3	3 4	
	NPO・NGO論	2	G2	2 3 4	
	地方自治と国際協力	2	G2	2 3 4	
	国際機構論	2	G3	3 4	
	比較税制論	2	G3	3 4	
	社会保障の国際比較	2	G3	3 4	
	都市計画の国際比較	2	G3	3 4	
	資源・エネルギー論	2	G2	2 3 4	
コミュニケーション科目群	Advanced English W/R I	2	G2	2 3 4	必修科目
	Advanced English W/R II	2	G2	2 3 4	必修科目
	Advanced English L/S I	2	G2	2 3 4	必修科目
	Advanced English L/S II	2	G2	2 3 4	必修科目
	Academic Writing I	2	G3	3 4	
	Academic Writing II	2	G3	3 4	
	Business Communication I	2	G3	3 4	
	Business Communication II	2	G3	3 4	
	Exam Prep. III	2	G2	2 3 4	
	Exam Prep. IV	2	G2	2 3 4	
	Exam Prep. V	2	G2	2 3 4	
	Exam Prep. VI	2	G2	2 3 4	
	Comprehensive English I	2	G3	3 4	
	Comprehensive English II	2	G3	3 4	
	Current Affairs	2	G3	3 4	
	Readings for Global Issues I	2	G2	2 3 4	
	Readings for Global Issues II	2	G2	2 3 4	
	翻訳実践	2	G3	3 4	

区分	科目	単位	グレードG	配当年次	備考
コミュニケーション科目群	観光英語	2	G3	3 4	
	貿易英語	2	G3	3 4	
	日本語文章表現Ⅰ	2	G2	2 3 4	
	日本語文章表現Ⅱ	2	G2	2 3 4	
	日本語コミュニケーション技法Ⅰ	2	G2	2 3 4	
	日本語コミュニケーション技法Ⅱ	2	G2	2 3 4	
	アカデミックライティング	2	G3	3 4	
	テクニカルライティング	2	G3	3 4	
	情報セキュリティ論	2	G2	2 3 4	
	ビジネスアプリケーション	2	G2	2 3 4	
	クラウド活用実践	2	G3	3 4	
	データマイニング	2	G3	3 4	
	Webデザイン実践	2	G3	3 4	
	メディア論	2	G2	2 3 4	
	グローバル化とメディア	2	G2	2 3 4	
	ソーシャルメディア論	2	G3	3 4	
	メディアと広告	2	G3	3 4	
	ジャーナリズム論	2	G3	3 4	
	ことばと文化	2	G2	2 3 4	
	社会心理学	2	G2	2 3 4	
	異文化コミュニケーション	2	G2	2 3 4	
	プレゼンテーション実践	2	G3	3 4	
	ディベート実践	2	G3	3 4	
	ビジネス交渉	2	G3	3 4	
経済系科目	ミクロ経済学Ⅱ	2	G2	2 3 4	
	マクロ経済学Ⅱ	2	G2	2 3 4	
	経済政策概論	2	G2	2 3 4	
	国際経済学概論	2	G2	2 3 4	
	国際金融概論	2	G2	2 3 4	
	比較経済論	2	G2	2 3 4	
	Japanese Economy	2	G3	3 4	
	中国経済論	2	G3	3 4	
	東南アジア経済論	2	G3	3 4	
	アメリカ経済論	2	G3	3 4	
	ヨーロッパ経済論	2	G3	3 4	
	ロシア経済論	2	G3	3 4	
	航空経済論	2	G3	3 4	
	Contemporary Economic Issues	2	G3	3 4	
国際ビジネス関連科目群	経営管理概論	2	G2	2 3 4	
	経営戦略論	2	G2	2 3 4	
	Business Management	2	G3	3 4	
	会計学概論	2	G2	2 3 4	
経営系科目	税法	2	G3	3 4	
	国際会計論	2	G3	3 4	
	経営情報概論	2	G3	3 4	
	マーケティング論	2	G2	2 3 4	
	流通システム論	2	G2	2 3 4	
	ビジネス統計	2	G2	2 3 4	
	国際経営論	2	G2	2 3 4	
	外国為替論	2	G3	3 4	
	貿易商務論	2	G3	3 4	
	貿易金融論	2	G3	3 4	

区分			科目	単位	グレードG		配当年次			備考
専門教育科目	専門発展科目	国際ビジネス関連科目群	国際取引と法(契約と決済)	2	G3		3	4		
			国際取引と法(紛争処理)	2	G3		3	4		
			国際ビジネスと知的財産	2	G3		3	4		
			観光概論	2	G2	2	3	4		
			観光資源論	2	G2	2	3	4		
			国際観光論	2	G3		3	4		
			航空実務	2	G3		3	4		
			クルーズ・ビジネス論	2	G3		3	4		
			ホスピタリティ論	2	G3		3	4		
			Tourism and World Heritages	2	G3		3	4		
			医療ビジネス論	2	G3		3	4		
	演習科目		基礎演習A	2	G1	1	2	3	4	必修科目
			基礎演習B	2	G1	1	2	3	4	必修科目
			専門演習ⅠA	2	G2		2			
			専門演習ⅠB	2	G2		2			
			専門演習ⅡA	2	G3			3		
			専門演習ⅡB	2	G3			3		
			専門演習ⅢA	2	G4				4	
			専門演習ⅢB	2	G4				4	
	留学・体験科目		海外語学研修	2	G1	1	2	3	4	海外語学研修又はフィールド・プロジェクトⅠのいずれかを選択必修。
			フィールド・プロジェクトⅠ	2	G1	1	2	3	4	
			フィールド・プロジェクトⅡ	2	G2		2	3	4	
	キャリア形成科目		国際キャリア開発A	2	G1	1				
			国際キャリア開発B	2	G1	1				
			国際キャリアデザイン演習A	2	G2		2			
			国際キャリアデザイン演習B	2	G2		2			
			国際キャリア演習A	2	G3			3		
			国際キャリア演習B	2	G3			3		
			インターンシップ	2	G2	1	2	3	4	
			海外インターンシップ	2	G2	1	2	3	4	

4

国際学部の人材養成理念・目的

国際学部は、本学の建学の理念の一つである「人権の伸長と国際平和への貢献」に則り、グローバル化の進展により生じる国際的・社会的諸課題を認識し、関連する幅広い学問分野における知見を用いて、課題解決の方法を見出すための教育研究を行います。

これにより、幅広い学際的な知識に基づく複眼的な観点から事象をとらえ、多様な価値観を受容しつつ、様々なグローバルフィールドで課題解決を図ることができる人材を育成します。そういった人材養成を行い、建学の理念の具現化に寄与することが、国際学部の教育研究上の目的です。

グローバル社会における諸課題は、文化、言語、歴史、経済、法律、政治等様々な学問分野の事象間で有機的・複合的に相互作用しています。そのため、グローバル社会における諸課題への対応は、学際的で多様なアプローチを用いて考察する必要があります。

国際学部における人材養成とは、グローバルな視野を持ち世界が抱える多種多様な問題について学修し、多様な学問分野から豊かな教養を身につけ、幅広い視野を持ち、その基盤の上に専門的理解を深めることによってグローバル社会に適切に向き合い、将来を見据える能力を備えた人材の養成にほかなりません。

このような教育研究上の目的を果たすため、本学部は社会科学分野の研究を中心としつつ、関連する分野の研究も併せて行い、産業社会・市民社会への還元を行います。

(1) 養成する人材像

国際学部において養成する人材像は、「異文化理解・多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材」です。

「異文化理解・多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につける」とは、グローバル化された社会において、文化や価値観、考え方の違いを踏まえ、他者の考えや意見を理解し、自らの考えを的確に伝える能力を身につけることです。「幅広い教養と専門性」とは、グローバル社会における諸課題を理解するために必要な、文化、言語、歴史、経済、法律、政治等様々な学際的専門知識とそれを修得するうえで基盤となる教養を表します。国際学部では、これらの能力や知識を身につけ、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざしています。

(2) 学生が修得すべき能力

このような人材養成を実現するために学生が修得すべき能力は、「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」、「国際協働力」であると定義し、その具体的な養成する能力の内容は下記のとおりです。

1. 国際理解力
- 国際理解力の基本的な要素は3つあり、その具体的な内容は下記のとおりです。
- 第1に、自国理解を基礎とした異文化理解、多文化共生志向です。自国のことを理解せずに異文化の理解はありえません。自国の文化、歴史、制度等を他国の文化、歴史、制度等と比較しながら学修することで、自国の特徴をよりよく理解することができるとともに、自国との相違を認識したうえで他国を尊重し、受容する国際感覚の修得は、国際的なビジネス・市民社会で活躍するために不可欠なものです。
- 第2に、グローバリゼーションとグローバルイシューの理解です。グローバリゼーションとは、経済にけん引された地球的規模でのボーダーレス化の進展と国家関係の緊密化、ICT(情報通信技術)の進歩や交通機関の発達による国境を越えた人々の移動により、様々な領域の問題が多くの国を巻き込んで地球規模に拡大している事態であり、グローバルイシューとは、経済・環境・人権・開発・ジェンダーなど、地球的規模での解決が必要な問題を指します。
- 第3に、他者の視点で物事をみる力です。多様性に富んだ国際社会では、他者の視点が自身と異なる価値観に基づくため、理解が困難な様々な事象が繰り返されることがあります。そこで、人間の価値観を形成する様々な社会的背景、例えば各国・地域の社会事情や歴史、文化を学ぶとともに、宗教、ジェンダー等の幅広い知識や考え方を修得することが必要となります。まずは他者の視点を理解すること、そして他者の視点で物事をみることにより、国際社会において客観的な判断に立って行動をすることができます。
2. 国際コミュニケーション力
- 国際コミュニケーション力の基本的な要素は2つあり、その具体的な内容は下記のとおりです。

(1) 広く人文・社会科学にわたる学際的学修

「グローバル人材」は、語学力・コミュニケーション能力や主体性・積極性、チャレンジ精神といった態度・志向性ととも、世界各国・地域の文化、歴史、社会、経済に対する幅広い知識が必要とされています。グローバル化する現代社会の諸課題を、歴史・文化、経済・経営、国際関係などの多様な視点から総合的・学際的に把握する見方と方法を学ぶことを重視しています。

そのため、1年次に専門基礎科目を学んだ後、2年次から4年次にかけて「国際理解」、「コミュニケーション」、「国際ビジネス関連」の3分野の専門発展科目群を複合的・学際的に学修する教育課程を提供しています。これにより、国際的なビジネス・市民社会で活躍する上で求められる幅広い知識と素養とともに、論理的思考力や公正な視点、異文化理解力を身につけることができます。

(2) コミュニケーションの基盤となる異文化理解の醸成

グローバル社会におけるコミュニケーションを支える基盤として、異文化に対する理解と多文化共生を育む人材の養成を目指し、世界各国・地域の文化、歴史と、現代の社会事情に関する科目を幅広く設置します。また、異文化理解の前提として、日本の文化、歴史、社会に対する理解は不可欠であることから、これらを理解するための科目を幅広く設置します。

(3) 実践的なコミュニケーション能力の育成

グローバル化時代に求められる実践的なコミュニケーション能力を、英語、日本語、情報リテラシーという3つのコミュニケーションツール、自己表現力、意思疎通力、交渉・合意形成力という3つのコミュニケーションスキルを総合したものと位置付けています。

1. コミュニケーションツール

体系的な語学科目と国際的な体験を行う科目を有機的に連携させた学修を通じて、実践的な英語運用能力を身につけます。1・2年次は、習熟度別に編成された少人数クラスにおいて、英語ネイティブ教員と日本人教員が協働して教育に取り組み、学生に英語の4技能（文章表現・読解・聴解・口頭表現）をバランスよく身につけるとともに、1年次の早期から実施する多彩な留学・海外体験と合わせて英語運用能力を高めます。

グローバル化は高度に発展した情報メディアと密接な関係にあり、今や企業・社会活動において情報リテラシーは必須のスキルとなっています。高度に情報化された現代社会を理解するとともに、ICTの活用能力、情報収集・分析・発信力等、様々なメディアを駆使した発信力ある人材の養成をめざします。

2. コミュニケーションスキル

コミュニケーション論、異文化コミュニケーション等の理論的な理解とともに、プレゼンテーション、ディベート、ビジネス交渉等を少人数で学ぶ授業を通じて、自己表現力、意思疎通力、交渉・合意形成力等を身につけます。また、各専門授業における少人数・双方向型教育や留学・海外体験、専門演習におけるPBL（Project-Based Learning）等の実践型教育を通して、コミュニケーションスキルを実践的に高めていきます。

(4) 1年次からの海外体験、多彩な留学プログラム等の国際教育プログラム

国際学部では、全学部生が1年次に「海外語学研修」又は海外での「フィールド・プロジェクトⅠ」に参加することになっています。これは語学力の向上という意義に加えて、学生たちが異文化に出会い、異なる国の人々と交流することの楽しさを早期に体験することを通じて、異文化に対する適応力や好奇心・積極性を高め、学修のモチベーションを高めることを重視しているためです。

そして、1年次の早期海外体験による異文化に対する基礎的理解とモチベーションの向上を土台に、希望者は2～3年次に1セメスターの英語留学を通してコミュニケーション能力を高め、3～4年次には海外協定校への交換留学や海外インターンシップ等を通して、より実践的なコミュニケーション能力と専門知識、就業力を身につけることができます。

(5) 1年次から4年間にわたる演習教育をはじめとする少人数教育

国際学部では、演習を1年次から4年次まで4年間を通して開講します。これらの演習は20人を定員とし、少人数による双方向型の教育を重視しています。また英語教育科目は1クラス20人を定員とした少人数クラスで実施します。

このような少人数教育を通じて、教員と学生、学生同士の学問的接触と人格的交流を活発に展開し、専門の基礎・発展の教育、多彩な留学・海外体験プログラム、キャリア教育と就職支援まで、4年間の学士課程教育全体を通して丁寧な教育を実施します。

●アドバイザー制度

国際学部では、語学・専門学修と海外体験・留学との相乗効果や将来の進路を見据えた海外体験・留学のプランニングなど、学生の将来の進路や希望を考慮しながら、学生が適切な選択ができるようにアドバイスを与え、支援し、4年間を通して学生の成長を見守っていく必要があります。そこで、4年間一貫したアドバイザーを配置しています。

(6) 将来の進路に対応した2つのコース

国際学部では、共通の教育課程の学修を基盤として、進路や関心に合わせて専門科目を体系的に履修できるように、履修モデル群として2つのコースを設定しています。

1. 国際コミュニケーションコース

「国際コミュニケーションコース」では、世界の様々な国や地域の多様なバックグラウンドを持った人々と協働し、共に生きていくために、多様な価値観を尊重し、異なる文化や社会の中でその差異を受容しながら問題解決を図ることができる国際感覚を有する人材を養成することを目標とします。

2. グローバルキャリアコース

「グローバルキャリアコース」では、経済・経営を中心とする知識や素養に加え、ビジネス法学、世界情勢や国際関係のほか、異文化に対する理解等を前提とする広い教養を兼ね備え、主にビジネスの国際的展開に貢献できる人材を育成することを目標とします。

(7) 異文化理解と多文化共生を育む国際色豊かな教育空間

国際学部では、留学・海外体験プログラムによる異文化・国際交流の体験を重視するとともに、キャンパス内においてもネイティブ教員や多様な国・地域出身の留学生との交流を積極的に推進し、豊かな国際感覚を育むキャンパスライフを創出します。

国際学部では、専任教員の多くが国際的な研究・就業経験を有しています。また現在、本学は多様な国・地域からの留学生が在籍しており、専門演習をはじめとする少人数教育、学内外で実施される様々な異文化交流活動を通して、日本人学生と留学生との教育上・学生生活上の交流が活発に行われています。

このような学内における異文化・国際交流活動をより積極的に実施し、国際色豊かな教育空間を日常的に創出します。

(8) キャリア教育の一環としての特別プログラムと資格取得支援

4年間にわたる体系的なキャリア教育を実施するのに加え、人材養成のための特別プログラムの実施、資格取得の支援を正課外のプログラムで積極的にサポートします。本学部が想定する卒業後の進路に対応した特別プログラムを実施します。

1年次は、TOEIC® 対策となる英語基礎講座を開講します。加えて、TOEFL® やIELTS™ 等の受験を積極的に推奨します。これらの試験については、学内で試験対策講座を実施し、スコアアップを図ることができるよう支援体制を整えていきます。

(1) 国際学部の教育課程編成の基本方針

専門教育科目は、1年次に「専門基礎科目」で基礎的な専門知識を修得し、2年次以降に「専門発展科目」（「国際理解科目群」、「コミュニケーション科目群」、「国際ビジネス関連科目群」）で発展的な専門知識を学際的に学修します。また、将来の進路に対応した2つのコース、「国際コミュニケーションコース」、「グローバルキャリアコース」に基づいて、体系的・専門的な学修を行います。

また、「体験重視」「実践重視」の考えのもと、全学部生が1年次の早期から海外体験を行えるようにするほか、在学中に複数回・複数国に留学ができる体制を整えています。

それと同時に、共通教育科目の履修を通じて、幅広い分野の教養学修を行います。その際、学生の興味・関心に応じて履修するだけでなく、履修モデルによって推奨する科目を示すことで、本学部の専門教育と補完的関係にある科目の履修を推奨するなど、学生がより目的意識的な学修を行えるようにします。

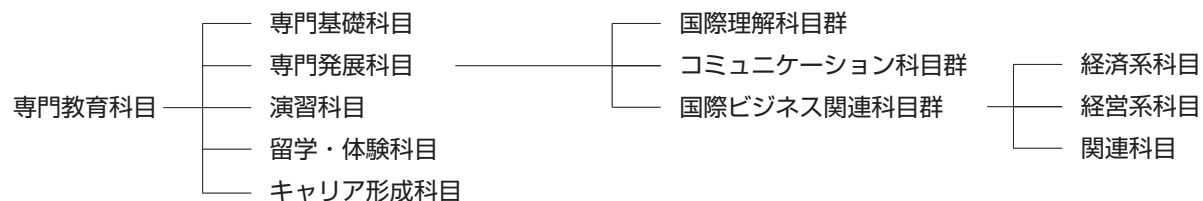
4年間を通じて設定される演習では、履修指導・学修指導とキャリア支援を行い、学生が目的意識をもって学修に取り組むようにするとともに、国際学部の特性に合わせたキャリア教育を実施します。

(2) 教育課程の科目区分及び科目構成

国際学部の教育課程は、「専門教育科目」と「共通教育科目」で構成されています。

1. 専門教育科目

「専門教育科目」は、「専門基礎科目」、「専門発展科目」、「演習科目」、「留学・体験科目」及び「キャリア形成科目」に区分しています。



(1) 専門基礎科目

この科目区分に設置される科目は、専門知識を修得するにあたって必要な基礎的知識を学修するものであり、1年次に配当しています。「異文化理解」、「日本史概論Ⅰ」、「日本史概論Ⅱ」、「世界史概論Ⅰ」、「世界史概論Ⅱ」、「国際政治学Ⅰ」、「国際社会と法」、「市民社会と法」、「日本と国際法」では、自国理解に基づく国際理解を促進するための基礎的な知識を身につけます。

また、「国際コミュニケーション力」における英語運用能力を高めるために必須となる、4技能（文章表現・読解・聴解・口頭表現）を入学後の早い段階で修得することを目標として、「Intensive English W/RⅠ」、「Intensive English W/RⅡ」、「Intensive English L/SⅠ」、「Intensive English L/SⅡ」の4科目（8単位）を設置し、必修科目としています。

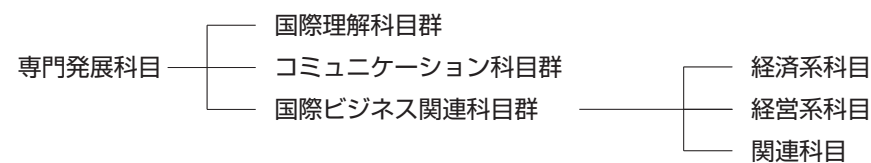
さらに、「国際コミュニケーション力」を身につけるための基礎知識や技能を修得する「Exam Prep.Ⅰ」、「Exam Prep.Ⅱ」、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、「メディアリテラシー」、「コミュニケーション論」を設置し、「国際ビジネス力」を身につけるための基礎知識を修得するために「ミクロ経済学Ⅰ」、「マクロ経済学Ⅰ」、「経営学概論」、「国際ビジネス概論」を配置しています。

<1年次必修外国語>

「Intensive English W/RⅠ」、「Intensive English W/RⅡ」、「Intensive English L/SⅠ」、「Intensive English L/SⅡ」の4科目（8単位）

(2) 専門発展科目

「専門発展科目」においては、「専門基礎科目」で修得した知識に基づく発展学修を行います。「専門発展科目」では、「国際理解力」の修得を目的とした「国際理解科目群」、「国際コミュニケーション力」の修得を目的とした「コミュニケーション科目群」、「国際ビジネス力」の修得を目的とした「国際ビジネス関連科目群」を設定しています。これにより、学際的かつ複合的に専門学修を行うとともに、基礎から発展という段階的な学修が可能となっています。



「専門発展科目」は、「専門基礎科目」で修得した基礎的な専門知識に基づいて学修を行うために、2年次から4年次に配当しています。なお、「専門発展科目」の各科目群において、専門基礎科目に続いて早期に学修しておくことが望ましい科目や、科目群の中における基本的な知識および技能について学修する科目を2年次配当とし、より発展的な内容を扱う科目を3・4年次配当としています。また、学生が体系的な履修を行うように、履修モデルに沿って、適宜、履修指導を実施します。各履修モデルでは、特に3・4年次にそれぞれの進路に関係の深い科目を履修します。

① 国際理解科目群

「国際理解科目群」では、多文化共生を志向し、異文化理解を育むために必要な日本と世界の文化・歴史・社会等に関する科目を設置しています。「国際理解科目群」の科目を履修することで、自国理解に基づき多様な価値観を受容しながら、グローバル化や地球的・地域的課題を認識する「国際理解力」を身につけます。そのために、下記のa. 自国理解を基礎とした異文化理解・多文化共生志向、b. グローバリゼーションとグローバルイシューを理解する科目、c. 他者の視点で物事を見る力を育む科目を配置しています。

a. 自国理解を基礎とした異文化理解・多文化共生志向	「日本文化論」、「比較文化論」、「多文化共生社会論」、「Multiculturalism in Modern Society」、「異文化適応論」、「Japanese Culture」、「Japanese History」、「Japanese Society」、「Japanese Geography」、「Japanese Law and Society」、「Comparative Culture」、「Comparative Legal System」
b. グローバリゼーションとグローバルイシューの理解	「国際政治学Ⅱ」、「国際関係論」、「安全保障と国際法」、「核問題と安全保障」、「国際紛争の平和的解決と国際法」、「International Relations and Law (Introduction to International Law)」、「国際協力法」、「国際人権法」、「国際社会と人の移動」、「International Migration」、「政治地理学」、「NPO・NGO論」、「地方自治と国際協力」、「国際機構論」、「比較税制論」、「社会保障の国際比較」、「都市計画の国際比較」、「資源・エネルギー論」
c. 他者の視点で物事を見る力	「多文化共生社会論」、「ジェンダー論」、「宗教学」、「社会思想史」、「アジア史」、「アメリカ史」、「アメリカ外交史」、「ヨーロッパ史」、「現代中国事情」、「現代東南アジア事情」、「現代オセアニア事情」、「現代アメリカ事情」、「現代ヨーロッパ事情」、「現代中東事情」、「Regional Studies (Asia)」、「Regional Studies (Oceania)」、「Regional Studies (America)」、「Regional Studies (Europe)」

② コミュニケーション科目群

「コミュニケーション科目群」では、実践的なコミュニケーション能力を修得し、グローバルな場面で通用する英語運用能力を身につけるための科目や、コミュニケーションの媒体としての情報とメディアに関連する科目等を配置しています。「コミュニケーション科目群」の科目を履修することで、コミュニケーションツールとして英語や日本語、ICTを活用する能力と、プレゼンテーションスキルや交渉力等のコミュニケーションスキルを含む「国際コミュニケーション力」を身につけます。そのために、下記のa. コミュニケーションツールを修得する科目、b. コミュニケーションスキルを修得する科目を配置しています。

a. コミュニケーションツールの修得	<英語> 「Advanced English W/R Ⅰ」、 「Advanced English W/R Ⅱ」、 「Advanced English L/S Ⅰ」、 「Advanced English L/S Ⅱ」、 「Academic Writing Ⅰ」、 「Academic Writing Ⅱ」、 「Business Communication Ⅰ」、 「Business Communication Ⅱ」、 「Exam Prep. Ⅲ」、 「Exam Prep. Ⅳ」、 「Exam Prep. Ⅴ」、 「Exam Prep. Ⅵ」、 「Comprehensive English Ⅰ」、 「Comprehensive English Ⅱ」、 「Current Affairs」、 「Readings for Global Issues Ⅰ」、 「Readings for Global Issues Ⅱ」、 「翻訳実践」、 「観光英語」、 「貿易英語」 <日本語> 「日本語文章表現Ⅰ」、 「日本語文章表現Ⅱ」、 「アカデミックライティング」、 「テクニカルライティング」、 「日本語コミュニケーション技法Ⅰ」、 「日本語コミュニケーション技法Ⅱ」 <情報リテラシー> 「情報セキュリティ論」、 「ビジネスアプリケーション」、 「クラウド活用実践」、 「データマイニング」、 「Webデザイン実践」、 「メディア論」、 「グローバル化とメディア」、 「ソーシャルメディア論」、 「メディアと広告」、 「ジャーナリズム論」
b. コミュニケーションスキルの修得	「ことばと文化」、 「社会心理学」、 「異文化コミュニケーション」、 「プレゼンテーション実践」、 「ディベート実践」、 「ビジネス交渉」

「Advanced English W/R Ⅰ」、 「Advanced English W/R Ⅱ」、 「Advanced English L/S Ⅰ」、 「Advanced English L/S Ⅱ」の4科目（8単位）は、1年次の英語必修科目である「Intensive English W/R Ⅰ」、 「Intensive English W/R Ⅱ」、 「Intensive English L/S Ⅰ」、 「Intensive English L/S Ⅱ」の発展科目であり、より高度な文脈や複雑な場面において、必要な情報を英語で正確に抽出し、発信する力を養うことを目的とした科目であり、2年次における必修科目です。

<2年次必修外国語> 「Advanced English W/R Ⅰ」、 「Advanced English W/R Ⅱ」、 「Advanced English L/S Ⅰ」、 「Advanced English L/S Ⅱ」の4科目（8単位）

③ 国際ビジネス関連科目群

「国際ビジネス関連科目群」では、グローバルに展開する様々なビジネスに関わる事柄を理解するための学修を行う科目を設置しています。「国際ビジネス関連科目群」の科目を履修することで、グローバルなビジネスの現場における諸課題を的確に認識し、その解決のために取り組むことができる「国際ビジネス力」を身につけます。

そのために、下記のa. 国際的な経済情勢を理解する科目、b. 国際ビジネスの専門知識及び実践能力を修得する科目、c. 国際ビジネスの関連領域であるビジネス法学、観光等の基礎的な専門知識及び実践能力を修得する科目を配置しています。

a. 国際的な経済情勢の理解（経済系科目）	「ミクロ経済学Ⅱ」、 「マクロ経済学Ⅱ」、 「経済政策概論」、 「国際経済学概論」、 「国際金融概論」、 「比較経済論」、 「Japanese Economy」、 「中国経済論」、 「東南アジア経済論」、 「アメリカ経済論」、 「ヨーロッパ経済論」、 「ロシア経済論」、 「航空経済論」、 「Contemporary Economic Issues」
b. 国際ビジネスの専門知識及び実践能力の修得（経営系科目）	「経営管理概論」、 「経営戦略論」、 「Business Management」、 「会計学概論」、 「税法」、 「国際会計論」、 「経営情報概論」、 「マーケティング論」、 「流通システム論」、 「ビジネス統計」、 「国際経営論」、 「外国為替論」、 「貿易商務論」、 「貿易金融論」
c. 国際ビジネスの関連領域であるビジネス法学、観光等の基礎的な専門知識及び実践能力の修得（関連科目）	「国際取引と法（契約と決済）」、 「国際取引と法（紛争処理）」、 「国際ビジネスと知的財産」、 「観光概論」、 「観光資源論」、 「国際観光論」、 「航空実務」、 「クルーズ・ビジネス論」、 「ホスピタリティ論」、 「Tourism and World Heritages」、 「医療ビジネス論」

(3) 演習科目

講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。

学生は自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、「留学・体験科目」、「キャリア形成科目」と合わせて、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。また「演習科目」では、段階的・体系的に編成された教育課程を、趣旨に沿って適切に履修するように指導します。その際、個々の学生における学修の進捗や到達度を学修ポートフォリオ等により共有し、担当教員を中心とした支援体制のもとで指導を行います。

「演習科目」は、1年次に「基礎演習A」、「基礎演習B」、2年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行います。

学部における学修に必要な基礎的素養を身につけさせることの重要性和、早期の海外体験に参加するにあたり、その準備のための指導が必要であることから、「基礎演習A」、「基礎演習B」の2科目（4単位）は必修です。さらに、4年間を通して一貫した指導を行うために、2年次以降の「演習科目」の履修を推奨しています。

1年次	2年次	3年次	4年次
基礎演習A・B（必修）	専門演習ⅠA・B	専門演習ⅡA・B	専門演習ⅢA・B

●基礎演習

1年次の必修科目である「基礎演習A」、「基礎演習B」では、大学での学修に必要な自主的かつ積極的な学修態度や技能等を身につけることを目的とするとともに、同様に1年次の必修科目である「留学・体験科目」（「フィールド・プロジェクトⅠ」もしくは「海外語学研修」）の履修を安全かつ円滑に行えるよう、海外に行く心構えを持ち、グループとして行動する上での規律を身につけ、積極的に参加する意欲を喚起し、渡航によって「気づき（語学＋専門の学修動機）」を得られるようにしています。

(4) 留学・体験科目

海外における集中的な英語学修と体験・実践を通じて、学修動機の形成と向上を図り、グローバル人材としての能力を修得するため、下記の「留学・体験科目」を設置しています。「海外語学研修」と「フィールド・プロジェクトⅠ」を選択必修とし、1年次においていずれか1科目を履修することになっています。

海外における集中的な学修と体験は、英語運用能力、コミュニケーション能力、異文化理解、国際協働力などの効率的でバランスのとれた成長、さらには、学修動機の形成と向上に有効です。海外における学修と体験が、学生の成長、課題発見、学修動機の形成と向上に与える効果に着目し、その機会を早期に提供することが国際学部の教育目標の達成に有効であるため、「海外語学研修」あるいは「フィールド・プロジェクトⅠ」を1年次の選択必修科目としています。

2年次以降、2回目に「フィールド・プロジェクト」に参加する場合は、「フィールド・プロジェクトⅡ」として履修登録を行います。

(5) キャリア形成科目

1年次	2年次	3年次
国際キャリア開発A・B	国際キャリアデザイン演習A・B	国際キャリア演習A・B

国際学部では、「キャリア形成科目」を設定し、4年間を通じた段階的・体系的なキャリア教育を行い、国際コミュニケーション力と国際協働力を中心に、グローバル人材に必要な素養を涵養するとともに、社会的・職業的自立に必要な能力を養成します。「キャリア形成科目」ではグループワーク等のアクティブ・ラーニングにより、自己表現力（プレゼンテーション力）や意思疎通力をはじめとするコミュニケーション能力と協働して課題に取り組む能力の向上を図ります。

1年次には、「国際キャリア開発A」、「国際キャリア開発B」で、グローバル化する現代社会で就業することについての動機づけを行い、そのために必要とされる能力について理解します。

2年次には、「国際キャリアデザイン演習A」、「国際キャリアデザイン演習B」で、自己・社会・職業についての理解を深め、将

来のキャリアデザインとその実現に必要な社会人基礎力を養成します。

3年次には、「国際キャリア演習A」、「国際キャリア演習B」で、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を育成します。

また、国内外での就業体験を通じて、将来の進路や職業の選択に向けた職業観の涵養を目的として、「インターンシップ」と「海外インターンシップ」を設置しています。これらの科目は、1・2・3・4年次に配当しています。

なお、4年次については、「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」の各クラスにキャリアセンターの専門スタッフが専属の担当としてつき、専門演習の担当教員とともに、個別のキャリア指導を行います。

2. 共通教育科目

「共通教育科目」では、本学部で養成する人材像で掲げる「幅広い教養」を身につけるために、多様な分野における教養教育を行っています。そのため、各分野において、人文、社会、自然科学を学修する科目、情報、健康に関する知識や技能を修得する科目、現代的な諸課題を考察する科目等を配置しています。

これら「共通教育科目」は、グローバル人材養成に必要な幅広い教養教育を提供するもので、基本的に1年次から4年次に配当し、それぞれの興味・関心に応じて履修できるようになっています。

ただし、大学で必要とされる文章表現力の修得を目標とする「文章表現入門」と、基礎的な体力の向上と健康の増進を図る「基礎体育A」、「基礎体育B」は、特に1年次に履修することが望ましいので1年次に配当しています。また、情報、環境、健康等に関する科目で、発展的な内容を扱う科目は2年次以降に配当しています。

「共通教育科目」において、本学部の専門科目との関係で入門的・導入的性格を有する科目等、特に履修すべきと思われるものについては、履修モデルにおいて推奨科目として例示しています。

(1) 国際学部 1年次教育プログラム科目群

区分	科目名	時期	備考
専門教育科目	異文化理解	春	【履修推奨】
	日本史概論Ⅰ	春	
	日本史概論Ⅱ	秋	
	世界史概論Ⅰ	春	
	世界史概論Ⅱ	秋	
	国際政治学Ⅰ	秋	
	国際社会と法	秋	
	市民社会と法	春	
	日本と国際法	秋	
	Intensive English W/RⅠ	春	【必修】
	Intensive English W/RⅡ	秋	【必修】
	Intensive English L/SⅠ	春	【必修】
	Intensive English L/SⅡ	秋	【必修】
	Exam Prep.Ⅰ	春	
	Exam Prep.Ⅱ	秋	
	情報リテラシーⅠ	春	【履修推奨】
	情報リテラシーⅡ	秋	【履修推奨】
	メディアリテラシー	秋	
	コミュニケーション論	秋	
	ミクロ経済学Ⅰ	春	
	マクロ経済学Ⅰ	秋	
	経営学概論	春	
	国際ビジネス概論	秋	
	基礎演習A	春	【必修】
	基礎演習B	秋	【必修】
	海外語学研修 フィールド・プロジェクトⅠ	夏または 春の休業中	【いずれか選択必修】
	国際キャリア開発A	春	【履修推奨】
	国際キャリア開発B	秋	【履修推奨】
共通教育科目	文章表現入門ほか ※「文章表現入門」をはじめ、多くの共通教育科目が開講されており、将来のキャリアや専門教育との関連を考え、幅広く履修することが可能です。		

(2) 1年次教育プログラムの位置づけ

国際学部1年次教育は、高校から大学への学修スタイルを円滑に転換し、「大学への入門」としてのアカデミックスキルやスチューデントスキルを身につけます。また、国際学部における教育の一年目として、「世界へ関心を持つ」「英語で学ぶ」「海外体験（語学研修、フィールド・プロジェクト）」を軸とするグローバル素養教育と位置付け、新入生が履修する科目群です。

国際学部では、「海外体験を通じて、今後の語学および専門学修での動機づけとなるような『気づき』を得ることができる学生」および「世界に飛び出す心構えを持ち、積極的に参加する学生」の養成をめざしています。

「世界に飛び出す」ことへの心構えについては学生間に差があり、教員からのアドバイスやサポートを通じ、学生への働きかけにより海外体験への期待感を膨らますことができるようサポートします。特に基礎演習を通じ、担当教員はひとりひとりの学生に対し、柔軟性のある対応を行います。

(3) 授業の運営

1年次教育プログラム科目群では、大学生としての生活態度や学修姿勢とともに、大学での学修方法とグローバルな舞台で求められる専門基礎知識や素養を学びます。1年次教育プログラム科目群のすべての科目は、素早くアカデミックスキルやスチューデントスキルを身につけるためにも、特に積極的な授業参加を求めます。

1年次教育プログラムの中心は「基礎演習A・B」です。この1年次演習は、春学期・秋学期を通じて1年間継続します。基礎演習A・Bのクラスでは、教員がアドバイザー（後述のアドバイザー制度を参照）を担当します。アドバイザーである担当教員に加え、キャンパスアドバイザー（事務職員1人）及びスチューデントアシスタント（留学経験のある上級生で1人）の原則3人体制でクラスの運営を行います。

「基礎演習A・B」では、大学からの通知や連絡事項の伝達、履修確認表や、成績表の交付などをおこないます。また、学修のみならず、留学や海外体験等を含む学生生活全般についての、個別の相談に応じます。

(4) 1年次の必修・選択必修・履修推奨科目

国際学部の1年生の必修・選択必修・履修推奨科目は以下のとおりです。

春学期		単位数	秋学期		単位数
専門教育科目	【必修科目】		専門教育科目	【必修科目】	
	Intensive English W/RⅠ	2		Intensive English W/RⅡ	2
	Intensive English L/SⅠ	2		Intensive English L/SⅡ	2
	基礎演習A	2		基礎演習B	2
	【選択必修科目】			【選択必修科目】	
	フィールド・プロジェクトⅠ※	2		フィールド・プロジェクトⅠ※	2
	海外語学研修	2		海外語学研修	2
	【履修推奨科目】			【履修推奨科目】	
	情報リテラシーⅠ	2		情報リテラシーⅡ	2
	国際キャリア開発A	2		国際キャリア開発B	2
	異文化理解	2			

※フィールド・プロジェクトⅠは、夏季プログラム参加の場合は春学期、春季プログラム参加の場合は秋学期の履修が必要です。

国際学部の2年次教育

国際学部2年次の教育は、「世界を知る力」と「使える英語」を身につけ、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成するという目的を達成するために、1年次で修得した基礎的な知識を広げ、基盤となる能力を高める段階として位置づけています。

2年次では、国際コミュニケーションコースとグローバルキャリアコースの2つのコースのどちらかを選択し、両コースの基盤となる「世界をより広く知る」、「さらなる英語運用能力の向上および、中・長期の海外体験への積極的参加」、「国際理解と多文化共生志向の育成」、「グローバルレベルでの幅のあるキャリアイメージの形成」を目指した教育を行います。

1. 2年次の学修目標

国際学部2年次では、「世界を知る力」を身につけるための知識と能力を修得するための「国際理解科目群」、「コミュニケーション科目群」、「国際ビジネス科目群」の「専門発展科目」を開講し、それらの科目間での有機的な連関を深め、学際的な学びを促進します。また、1年次に引き続き、大学での学修に必要な自主的かつ積極的な学修態度や技能等を伸ばしながら、専門学修での知識を有機的に結びつける場として専門演習を運営し、グローバルに活躍するための社会観と職業観を養成します。

これらの科目の学修をとおして、2年次においては下記の到達目標を掲げています。

○ 到達目標

- ①グローバル化する現代社会の諸問題に関する基礎知識を広げ、学修動機を向上させる。
- ②正課の授業および、留学等の海外体験プログラムの参加によって、英語を中心とする言語運用能力を向上させる。
- ③情報の収集・分析能力を伸ばし、コミュニケーション能力を高める。
- ④国際ビジネスに興味関心を広げ、自己や社会、職業について関心を深める。
- ⑤互いの異なる文化や価値観を認め、アイデンティティの確立の土台を創る。

2. 「国際協働力」の涵養

「国際協働力」の養成に関しては、主に演習関連科目およびキャリア形成科目を中心に学修し、下記の到達目標を掲げています。

○ 到達目標

- ①積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。
- ②国際理解・多文化共生志向を深める。
- ③互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からの指導を受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。
- ④特別プログラムなどへの積極的な参加を通して、職業選択の幅と深さを知り、自身のキャリアイメージを具体化する。

3. 「国際理解力」の涵養

2年次の国際理解科目での学修を、「世界に対する多角的な視点を知る」ための段階と位置づけています。そこで、「広く知る」をキーワードに、科目の連関に留意して授業運営を行います。

まずは、多角的な視点の基礎となる歴史・文化・ジェンダー・宗教・価値観などの知識の幅を広げます。さらに、多様なアクターの動きに注目しながら国際関係に関する知識の幅を広げ、3年次からの「世界を多角的な視点から考え、知識を応用し、自身の意見をもつ」という一段レベルの上がる授業内容へとつなげてゆきます。

国際コミュニケーションコース履修者は、日本国内から見た国際関係を広く学ぶ科目を推奨しています。具体的には、日本の歴史および文化への理解をベースに国境を越えた人の移動や自治体協力のあり方等を学修します。

グローバル・キャリアコース履修者は、国際関係を通じて世界各地で生じるローカルな諸問題（国内問題および地域問題）を広く学ぶ科目を推奨します。具体的には、多様な文化、宗教、ジェンダー、社会思想、資源・エネルギーについて学修します。

○ 到達目標

- ①歴史・文化・ジェンダー・宗教・価値観などの共通性や差異への「気づき」を促し、知識の修得へと展開させ、各自が持った関心(面白み)をさらに押し広げる。
- ②個人、NPO・NGO、自治体、国家(政府)、国際機関などのアクターに注目しながら国際関係についての基礎知識の幅を広げる。

4. 「国際コミュニケーション力」の涵養

「使える英語」とともに多文化社会における「理解」及び「協働」を自らのものとするためには、コミュニケーションの能力はすべての基本となることから、2年次においてさらにその技能を様々な側面から高めていくことが重要です。「国際コミュニケーション力」を継続的に養成し向上させるために、必修の英語科目以外にも本学での学修における基本言語である日本語運用能力を、母語・外国語の別を問わず向上させ、情報分野の科目・社会科学系の科目の履修を通して、知識・技能を修得することを目的としています。

国際コミュニケーションコースを履修する学生には、多様な文化・社会に対する理解を深めることにつながる科目を中心とした履修を推奨しています。

グローバルキャリアコースを選択した学生には、ビジネスシーンで活用できる実践的なスキルを修得することにつながる科目を推奨しています。

○ 到達目標

- ①実践に役立つスキルの習得を主軸として、「使える英語」の基本4技能である「聞く」「話す」「読む」「書く」ことをさらに向上させる。
- ②様々な場面でその能力が問われる情報の収集・分析能力の向上と、受発信の実践的スキルを向上させる。
- ③日本語で他者に物事を的確かつ確実に伝えるための筋道の立て方や語彙の選択、話す状況や相手との社会的立場に基づいて判断される丁寧さといった話し方を学び、効果的かつ適切なコミュニケーション能力を身につける。
- ④言語面に見られる文化的要素や相違、それらによって起こり得る異文化間摩擦等を理解し、多文化共生社会における言語を介したインターアクションをいかに行うべきかについて自分なりに考えられるようになるとともに、コミュニケーション能力を向上させる。

5. 「国際ビジネス力」の涵養

2年次の国際ビジネス関連科目群での学修で、「国際ビジネスに対する現状を把握し、その背景にある事象との関連を知る」ための段階と位置づけています。そこで、「経済学」と「経営学」の関連性に配慮した授業を行い、国際ビジネスの現状となる知識を基礎として、関連する経済学の基礎を学修することで、知識の幅を広げて行きます。

2年次は、国際コミュニケーションコース履修者、グローバルキャリアコース履修者も経済学・経営学の基礎的な科目を重点的に学修することがのぞまれます。経済学・経営学の基礎知識をもとに、意識して世界経済の動きに目を配り、3年次からの国際ビジネス関連科目の専門学修が行えるような土台形成を行い、将来の具体的なキャリアを意識できるレベルへとつなげていくことを目標にしています。

国際ビジネス関連科目群では、経済学・経営学の基礎的な学修のため、国際コミュニケーションコース・グローバルキャリアコース履修者双方に、広く全体を理解する科目の履修を推奨しています。

国際コミュニケーションコース履修者は、将来の進路に関連する（目的別）経営学系科目の履修を推奨しています。

グローバルキャリアコース履修者は、将来の進路に関連する（目的別）経営学系科目と「国際経営論」「国際金融概論」の履修を推奨しています。

○ 到達目標

- ①経済学・経営学の関連性を意識しながら、基礎知識を広げる。
- ②国際的な経済情勢や国際ビジネスに関心を持ち、その背景にある問題を知る。
- ③国際的な経済情勢や国際ビジネスの現状と課題を広く知る。

6. 「幅広い教養」の涵養

国際理解科目群とコミュニケーション科目群における学修及び、興味に応じた共通教育科目の相乗的な学修を通して、国際学部のDPで示す、資質、能力の一端を担う「幅広い教養」を身につけます。

国際学部の3,4年次教育

国際学部3,4年次の教育は、学生が学修内容を「理解し意見をもつ」、そして「行動（研究）する」よう、これまでに修得した知識のさらなる拡充・深化を図り、主体的に応用することができるようになることを目標とします。具体的には、各自の学修および海外現地での体験に基づいた課題の発見力・分析力を修得し、能動的にその課題に向けて自ら考え、取り組む姿勢を身につけます。そのため、多角的な視点・専門知識を応用するための学修を行い、発展的な専門知識をふまえ、「課題発見力」、「分析力」、「解決力」を拡充させ、最終的な到達目標として学位授与の方針（DP）の実現を目指します。

1.「国際協働力」の涵養

「国際協働力」に関しては、主に「演習科目」、「留学・体験科目」、「国際キャリア科目」を中心に学修し、下記の到達目標を掲げています。

○到達目標

- ①培ったアカデミックスキルを活かし、先行研究の調査のうえに、自身の考えをまとめ、卒業研究を完成させることができる。
- ②複数国・複数回の多様な海外体験・留学を基に、異なる価値観や文化的背景をもつ他者への理解をもち、共同することができる。
- ③修得した知識を主体的に応用し、「課題発見力」、「分析力」、「解決力」を拡充させ、それぞれの課題に取り組む。
- ④課外講座や国内・海外インターンシップなどに積極的に参加し、自身が思い描く国際キャリアの実現を目指す。

2.「国際理解力」の涵養

「国際理解科目群」の学修を通じて、3,4年次においては、1,2年次を通じて修得した知識をさらに拡充する（インプット）のみならず、そうした国際理解に係る知識を各々が所属するコースにおける学修に応用して、自分なりに問題提起した上で、先行研究を分析し、持論を展開する作業（アウトプット）を行うことを目標とします。

「国際コミュニケーションコース」を履修する学生には、多文化共生、比較文化、地域研究、国際法、国際社会、歴史などについての専門知識を学修し、国際交流を推進する過程において生じ得る課題とその対応について深く検討する科目を中心とした履修を推奨しています。

「グローバルキャリアコース」を履修する学生には、政治地理、国際機構、比較税制、社会保障、都市計画、市民社会などについての専門知識を学修し、国際ビジネスに従事する際に対処すべき課題について深く検討する科目を中心とした履修を推奨しています。

○到達目標

- ①グローバル課題に関する定説に疑問を抱くのみならず、それを発展させて自分なりの問題提起が行えるようになる。
- ②修得した課題発見力・分析力・問題解決力を活用し、それぞれの所属するコースの専門分野におけるグローバル課題に関する先行研究を分析し整理することができるようになる。
- ③フィールド・プロジェクト、留学、インターンシップなど、1年次からの様々な機会における海外体験・異文化交流を通じて得た国際理解を踏まえ、自らの見解を持ち、発信することができる。
- ④自己実現の方途を見定め、就業を含む進路について自発的に決定し、行動することができる。

3.「国際コミュニケーション力」の涵養

「コミュニケーション科目群」の学修を通じて、これまで修得した言語やメディア、情報の知識及び、英語や日本語によるコミュニケーションやICT活用のスキル等に基づき、様々な情報収集・分析能力を活用し、自らの判断で、自身を含め、取り組んでいるテーマを効果的にアピールすることを目的とした構成・発信の能力の発展と応用できる実践能力を身につけることを目指します。

「国際コミュニケーションコース」を履修する学生には、多様な文化・社会に対する理解を深めることにつながる科目を中心とした履修を推奨しています。

「グローバルキャリアコース」を履修する学生には、ビジネスシーンで活用できる実践的なスキルを修得することにつながる科目を推奨しています。

○到達目標

- ①実践に役立つスキルの修得を主軸として、「使える英語」の基本4技能である「聞く」「話す」「読む」「書く」ことを駆使して、他社とのコミュニケーションを円滑に行える。
- ②情報の収集・分析能力と、受発信の実践的スキルをさらに向上させ、社会で必要とされるICT利活用能力を身につける。

- ③様々な事柄に関する自らの考えや主張を、筋道を立てて的確に伝えることができるコミュニケーション能力と文章表現能力を身につける。

- ④国際的なビジネスの現場で、異文化理解に基づき、プレゼンテーションや交渉を行うことができる素地を身につける。

4.「国際ビジネス力」の涵養

「国際ビジネス関連科目群」の学修を通じて、課題解決能力を高め、社会人として必要な心得や進路に関する専門知識を拡充させます。具体的には、経済学分野では、海外の地域に的を絞った経済情勢の把握をするための学修を行い、経営学分野では、観光分野と国際商取引分野を中心に将来進路に関連した内容を学修することで実践的な知識を修得します。

経済学・経営学の幅広い学修のため、「国際コミュニケーションコース」、「グローバルキャリアコース」履修者双方に、広く全体を理解する科目の履修を推奨しています。

○到達目標

- ①経済学・経営学の分野から専門知識の理解を深める。
- ②各国の経済情勢や国際ビジネスの専門分野の課題解決を検討する。
- ③進路に関する専門知識を拡充とビジネスに必要な知識を深める。

5.「幅広い教養」の涵養

1,2年次に引き続き、国際理解科目群とコミュニケーション科目群における学修及び、興味に応じた共通教育科目の相乗的な学修を通して、国際学部のDPで示す、資質、能力の一端を担う「幅広い教養」を身につけます。

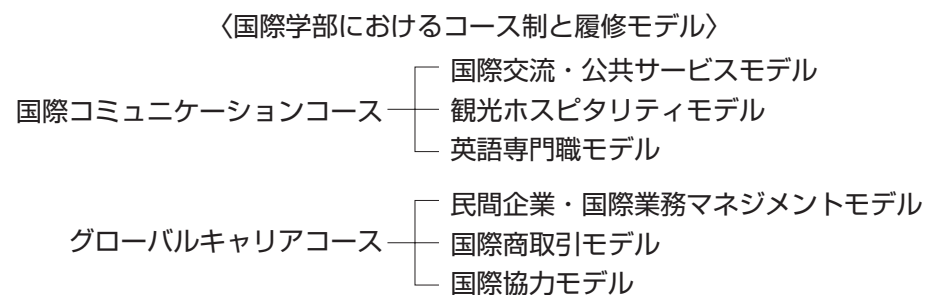
国際学部2年次以降の学生は「国際コミュニケーションコース」、「グローバルキャリアコース」のいずれかを選択して属することになります。

各コースではそれぞれ3つの履修モデルを明示し、卒業後の進路を見据えた段階的かつ体系的な学修を行うように履修指導を行います。各科目は、段階的・体系的な学修を進めることができるように配当年次が定められていますが、履修モデルに沿った学修により、学生は段階的に学修を進めることができます。

すべての履修モデルは、本学部の養成する人材像に基づき、「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」、「国際協働力」の4つの能力を学生に身につけさせることを共通の基本としています。

まず、「専門基礎科目」の履修を通じて「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」に関する基礎的な知識及び能力を、また演習科目、キャリア形成科目、1年次の留学・体験科目の履修により「国際協働力」に関する基礎的な知識及び能力を修得します。加えて、「共通教育科目」の履修を通じて幅広い教養を身につけます。

このようにして、いずれの履修モデルを選択しても、養成する人材像に共通した基礎的な素養を修得できるようになっています。その上で、主に専門発展科目の履修をモデルに対応して行い、それぞれのモデルが想定する進路において重点的に求められる知識及び能力を修得します。



(1) 国際コミュニケーションコース

－英語を中心に学び、国際感覚を有する人材を養成する－

国際コミュニケーションコースの目標

国際コミュニケーションコースは、世界の様々な国や地域の多様なバックグラウンドを持った人々と協働し、多様な価値観を尊重しつつ、異なる文化や社会の中で問題解決を図ることができる国際感覚を有する人材となるための履修モデルであり、主に「コミュニケーション科目群」の科目を履修することで、異文化に対する理解と多文化共生を育む人材の養成を目指し、世界各国・地域の文化、歴史と、現代の社会事情に精通した能力を身につけることを目標としています。

想定される（目標とする）進路と履修モデル

想定される（目標とする）進路は、国際交流業務を担当する地方公務員や民間団体（NPO・NGO等）、運輸業・航空業界、旅行業・ホテルなどのホスピタリティ業界、国際秘書、通訳案内士、翻訳業ほか英語の専門サービス業や企業・団体で高度の英語能力が要求される業務の担当者です。

【履修モデル】

①国際交流・公共サービスモデル ②観光ホスピタリティモデル ③英語専門職モデル

国際コミュニケーションコースの特色

英語や日本語等の言語を中心的に学修することを通じ、その背景にある文化や思想、考え方を理解し、英語等の言語をツールとして、グローバル社会で活躍できる能力や素養を身につけます。

- 1) 多彩な留学・海外体験と合わせて英語運用能力を高める。
- 2) 自己表現力、意思疎通力、交渉・合意形成力等を身につける。
- 3) 異文化に対する適応力や好奇心・積極性を高める。

(2) グローバルキャリアコース

－異文化を理解し、国際ビジネスに対応できる柔軟な人材を養成する－

グローバルキャリアコースの目標

グローバル化する現代社会の諸課題を、歴史・文化、経済・経営、国際関係などの多様な視点から総合的に把握する見方を有する人材となるための履修モデルであり、主に「国際ビジネス関連科目群」の科目の履修することで、経済・経営を中心とする知識や素養に加え、ビジネス法学、世界情勢や国際関係のほか、異文化に対する理解等を前提とする広い教養を兼ね備え、主にビジネスの国際的展開に貢献できる人材を育成することを目標としています。

想定される（目標とする）進路と履修モデル

想定される（目標とする）進路は、外資系企業や海外支店勤務を含む民間企業の国際業務担当者、商社・貿易会社で国際商取引に携わる人材、政府系援助機関や国際機関の職員です。

【履修モデル】

①民間企業・国際業務マネジメントモデル ②国際商取引モデル ③国際協力モデル

グローバルキャリアコースの特色

異文化に対する理解をもとに、経済学・経営学の基礎的な知識や経済学的な思考を学修し、グローバルビジネスの実務関連知識を加えることで、ビジネスの現場で求められる柔軟な思考方法を学びます。

- 1) 海外体験でコミュニケーション能力を高める。
- 2) プレゼンテーション、ディベート、ビジネス交渉力を身につける。
- 3) インターンシップ等を通して、より実践的な就業力を身につける。

(3) 2019年度国際コミュニケーションコース・履修モデル推奨科目一覧

①国際交流・公共サービスモデル（国際交流業務を担当する地方公務員や民間団体（NPO・NGO）などの職員）

	1年次			2年次					3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休			春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解 世界史概論Ⅰ 市民社会と法 Intensive English W/RⅠ Intensive English L/SⅠ ミクロ経済学Ⅰ Exam Prep.Ⅰ	世界史概論Ⅱ Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ コミュニケーション論 マクロ経済学Ⅱ Exam Prep.Ⅱ												
専門発展科目 （国際理解科目群）				国際関係論 NPO・NGO論 地方自治と国際協力	比較文化論 国際社会と人の移動				多文化共生社会論			現代中国事情 都市計画の国際比較		Regional Studies (Asia)
専門発展科目 （コミュニケーション 科目群）				Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ 日本語文章表現Ⅰ 情報セキュリティ論 ことばと文化 Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ Advanced English L/SⅡ 日本語文章表現Ⅱ グローバル化とメディア 異文化コミュニケーション Exam Prep.Ⅳ				翻訳実践 プレゼンテーション実践 Exam Prep.Ⅴ	ディベート実践 Exam Prep.Ⅵ		Current Affairs 観光英語		
専門発展科目 （国際ビジネス関連 科目群）					経済政策概論				中国経済論 国際観光論			ホスピタリティ論	Tourism and World Heritages	
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB				専門演習ⅡA	専門演習ⅡB		専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
留学・体験科目			フィールド・プロジェクトⅠ											
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B				国際キャリア演習A	国際キャリア演習B				
共通教育科目	文章表現入門	地理学		日本国憲法	日本近現代史				環境と社会	海運と港湾 ビジネスリテラシー				

②観光ホスピタリティモデル（運輸業・航空業界、観光・旅行業界、ホテルなどのホスピタリティ業界）

	1年次			2年次					3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休			春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解 日本史概論Ⅰ 世界史概論Ⅰ Intensive English W/RⅠ Intensive English L/SⅠ 情報リテラシーⅠ ミクロ経済学Ⅰ Exam Prep.Ⅰ	日本史概論Ⅱ 世界史概論Ⅱ Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ コミュニケーション論 マクロ経済学Ⅱ Exam Prep.Ⅱ												
専門発展科目 （国際理解科目群）				日本文化論 国際関係論	Japanese Geography 国際社会と人の移動					現代アメリカ事情				
専門発展科目 （コミュニケーション 科目群）				Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ 日本語文章表現Ⅰ メディア論 ことばと文化 Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ Advanced English L/SⅡ 日本語文章表現Ⅱ 異文化コミュニケーション Exam Prep.Ⅳ				Business CommunicationⅠ 観光英語 Exam Prep.Ⅴ	Business CommunicationⅡ Exam Prep.Ⅵ		翻訳実践 プレゼンテーション実践	ディベート実践	
専門発展科目 （国際ビジネス関連 科目群）				観光概論	観光資源論				国際観光論 ホスピタリティ論	航空実務				
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB				専門演習ⅡA	専門演習ⅡB		専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
留学・体験科目			フィールド・プロジェクトⅠ			フィールド・プロジェクトⅡ								
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B				国際キャリア演習A	国際キャリア演習B	海外インターンシップ			
共通教育科目	文章表現入門 地域文化論	心理学 地理学		現代社会学	社会学				地球と環境					

③英語専門職モデル（国際秘書、通訳案内士、翻訳業ほか英語の専門サービス業や企業団体で高度の英語能力が要求される業務の担当者）

	1年次			2年次					3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休			春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解 日本史概論Ⅰ Intensive English W/RⅠ Intensive English L/SⅠ 情報リテラシーⅠ ミクロ経済学Ⅰ Exam Prep.Ⅰ	Intensive English W/RⅡ Intensive English L/SⅡ コミュニケーション論 マクロ経済学Ⅱ Exam Prep.Ⅱ												
専門発展科目 （国際理解科目群）				Japanese Society 国際関係論	Japanese Culture	Japanese History								Regional Studies (Asia)
専門発展科目 （コミュニケーション 科目群）				Advanced English W/RⅠ Advanced English L/SⅠ 日本語文章表現Ⅰ Exam Prep.Ⅲ	Advanced English W/RⅡ Advanced English L/SⅡ 日本語文章表現Ⅱ Exam Prep.Ⅳ				Academic WritingⅠ Business CommunicationⅠ 翻訳実践 Exam Prep.Ⅴ	Academic WritingⅡ Business CommunicationⅡ Exam Prep.Ⅵ		Comprehensive EnglishⅠ 観光英語	Comprehensive EnglishⅡ	
専門発展科目 （国際ビジネス関連 科目群）					国際経営論				Japanese Economy 国際観光論	Contemporary Economic Issues			Tourism and World Heritage	
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習ⅠA	専門演習ⅠB				専門演習ⅡA	専門演習ⅡB		専門演習ⅢA	専門演習ⅢB	
留学・体験科目			海外語学研修			フィールド・プロジェクトⅠ								
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B				国際キャリア演習A	国際キャリア演習B	海外インターンシップ			
共通教育科目	文章表現入門	現代社会学		現代社会とビジネス	言語学				人権の諸問題	環境と生態		環境と経営		

(4) 2019年度グローバルキャリアコース・履修モデル推奨科目一覧

①民間企業・国際業務マネジメントモデル（外資系企業、海外支店勤務を含む民間企業の国際業務を担当するビジネスパーソン）

	1年次			2年次					3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休			春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解 Intensive English W/R I Intensive English L/S I 情報リテラシー I ミクロ経済学 I 経営学概論 Exam Prep. I	Intensive English W/R II Intensive English L/S II コミュニケーション論 マクロ経済学 I 国際ビジネス概論 Exam Prep. II												
専門発展科目 （国際理解科目群）				国際関係論	比較文化論				現代中国事情 現代東南アジア事情			比較税制論		
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/R I Advanced English L/S I 日本語文章表現 I Exam Prep. III	Advanced English W/R II Advanced English L/S II 日本語文章表現 II ビジネスアプリケーション Exam Prep. IV			Business Communication I Exam Prep. V	Business Communication II Exam Prep. VI					
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）				比較経済論 経営管理概論 会計学概論	経営戦略論 国際経営論			税法 国際取引と法（契約と決済）	国際会計論 経営情報概論 国際取引と法（紛争処理）			Japanese Economy 中国経済論	東南アジア経済論 Contemporary Economic Issues Business Management	
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習 I A	専門演習 I B			専門演習 II A	専門演習 II B					
留学・体験科目			フィールド・プロジェクト I											
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B			専門演習 III A	専門演習 III B	
共通教育科目	文章表現入門	日本近現代史 心理学		現代社会とビジネス	社会学			環境と経営	ビジネスリテラシー					

②国際商取引モデル（商社などで国際取引業務を行う人材、貿易実務を専門的に担当する人材、JETRO、貿易のアドバイザー、通関士など）

	1年次			2年次					3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休			春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解 日本史概論 I 世界史概論 I Intensive English W/R I Intensive English L/S I ミクロ経済学 I 経営学概論 Exam Prep. I	日本史概論 II 世界史概論 II Intensive English W/R II Intensive English L/S II マクロ経済学 I 国際ビジネス概論 Exam Prep. II												
専門発展科目 （国際理解科目群）				国際関係論	宗教学				現代中国事情	現代アメリカ事情 現代中東事情				
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/R I Advanced English L/S I Exam Prep. III	Advanced English W/R II Advanced English L/S II Exam Prep. IV			プレゼンテーション実践 Exam Prep. V	ディベート実践 Exam Prep. VI					
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）				ミクロ経済学 II マクロ経済学 II 会計学概論 マーケティング論	国際経済学概論 国際金融概論 流通システム論 国際経営論			外国為替論 貿易商務論 国際取引と法（契約と決済）	アメリカ経済論 国際取引と法（紛争処理）			中国経済論 貿易金融論		
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習 I A	専門演習 I B			専門演習 II A	専門演習 II B			専門演習 III A	専門演習 III B	
留学・体験科目			フィールド・プロジェクト I											
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B	インターンシップ				
共通教育科目	文章表現入門	心理学		現代社会学				環境と経営 環境と社会	海運と港湾			地球と環境		

③国際協力モデル（経済協力分野の国際機関、政府系機関および民間団体（NPO・NGO含む）職員など）

	1年次			2年次					3年次			4年次		
	春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休			春学期	秋学期	夏休・春休	春学期	秋学期	夏休・春休
専門基礎科目	異文化理解 Intensive English W/R I Intensive English L/S I ミクロ経済学 I 経営学概論 Exam Prep. I	国際社会と法 Intensive English W/R II Intensive English L/S II マクロ経済学 I Exam Prep. II												
専門発展科目 （国際理解科目群）				国際関係論 NPO・NGO論								国際協力法	国際機構論	Regional studies (Asia)
専門発展科目 （コミュニケーション科目群）				Advanced English W/R I Advanced English L/S I 日本語文章表現 I Exam Prep. III	Advanced English W/R II Advanced English L/S II 日本語文章表現 II Exam Prep. IV			Exam Prep. V	Exam Prep. VI					
専門発展科目 （国際ビジネス関連科目群）				ミクロ経済学 II マクロ経済学 II 比較経済論 経営管理概論	経済政策概論 国際経済学概論 国際金融概論			Japanese Economy 国際取引と法（契約と決済）	東南アジア経済論 Business Management 国際取引と法（紛争処理）			中国経済論 医療ビジネス論	Contemporary Economic Issues	
演習科目	基礎演習A	基礎演習B		専門演習 I A	専門演習 I B			専門演習 II A	専門演習 II B			専門演習 III A	専門演習 III B	
留学・体験科目			フィールド・プロジェクト I			フィールド・プロジェクト II								
キャリア形成科目	国際キャリア開発A	国際キャリア開発B		国際キャリアデザイン演習A	国際キャリアデザイン演習B			国際キャリア演習A	国際キャリア演習B					
共通教育科目	文章表現入門	西洋史 地理学			日本近現代史			人権の諸問題 環境と社会	ビジネスリテラシー					

国際学部における英語教育は、言語学としての専門性の修得を目的とするのではなく、英語を用いて国際社会の様々な場面において必要なコミュニケーションを図ることができる実践的な活用力を重視します。

国際的なビジネス社会では、交渉・契約等にあたって、英語を基本言語として使用するのが通例であり、事業のグローバル化を進める日本企業が採用・昇格にあたって英語運用能力をより重視するようになっていきます。このような観点から、国際的なビジネス・市民社会で活躍するグローバル人材を養成することを目的とする国際学部においては、「使える英語力」を学生に修得させるべき必須の能力としています。

国際学部における英語教育は、1・2年次は、習熟度別に編成された少人数クラスにおいて、英語ネイティブ教員と日本人教員が協働して教育に取り組み、学生に英語の4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）をバランスよく身につけさせるとともに、1年次の早期から実施する多彩な留学・海外体験と合わせて英語運用能力を高めます。

また、TOEIC® やTOEFL® 等の英語能力試験の対策科目を1・2年次に配置し、卒業までに標準目標とするTOEIC® スコア600（使える600）取得の基礎となる英語運用能力を鍛えます。

3年次以降は、より高度な英語運用能力の獲得をめざし、コンテンツ・ベースドの英語教育科目を開設するほか、英語で学修する専門講義科目や演習科目を設置し、語学力をさらに高め、発展学修目標であるTOEIC® スコア730に挑みます。国際学部では「使える英語力」の修得に注力し、その客観的な評価の指標として、標準学修目標TOEIC® スコア600、発展学修目標TOEIC® スコア730を設定しています。

「使える600」とは、TOEIC® スコアはもとより、国際学部で学んだ知識と実際に体験したことを自分の言葉で表現・発信できることを意味します。したがって、英語教授の際には、「世界を知る力」の涵養と「留学・体験科目」への参加による実体験の積み重ねを念頭に置きそれらを組み合わせ、英語力の向上とアクセスできる知識の深さとが「比例」し、相互に刺激しながら向上と深化が達成できる教育を実施します。そのためにも、国際学部教育初年次の「コアとなる科目」である「基礎演習A」と「基礎演習B」との連携を強め、質の高い「英語教育+専門知識修得+実体験」を通じた学生の「国際性」涵養に注力します。

(1) 英語教育の考え方

国際学部では、すべての機会と手段を駆使して総合的英語力の向上を図ります。英語・専門授業等の正課、日常的交流や学修イベント、また、日本国内や海外での体験・留学等、関連するすべてを連携させた英語教育を実施します。本学部における英語教育は、学修空間並びに役割が異なりながらも、相関関係を有するあらゆる学修を不可分に調和させ、英語力の向上をトータルに進めます。

英語運用能力に関しては、図のように英語の全てのスキルを基礎から徹底的に学び、反復して修得します。あえて「基礎」にこだわる理由は、「基礎」の修得と定着こそが、生涯にわたる英語力の向上を担保するからです。英語の修得に奇策やショートカット（近道）はなく、教室やキャンパスの中と外、日本の中と外、あらゆる機会と手段を活用して、基礎から応用までの体系的な学びを経て、グローバル社会で使える英語力、生涯にわたって成長し続ける「英語の体幹」を鍛えます。

(2) 英語運用能力の到達度指標（TOEIC®）

国際学部では、正課の英語授業における学修到達度を期末テストの成績などによって評価し単位認定しますが、成績評価とは別に、TOEIC® スコアを一般的なビジネス英語運用能力の指標としてとらえ、教員と学生自身が学修目標達成の目安として使用します。

それによって、学生が一定のTOEIC® スコア達成にチャレンジし、将来のキャリアに向けより高い目標をもって自らを磨いていく機会とします。

1. 学部標準目標

英語運用能力に関しては、個々の学生の習熟度に応じたクラス編成を基本とし、より実践的な英語運用能力を修得させることをめざします。学部全体としては、TOEIC® スコア600が標準到達目標です。

TOEIC® スコア600とは、通常会話の要点を理解し就業に参加可能な能力を持つことを示し、同時に日本の企業がグローバル化に対応するための社員の英語運用能力として求める平均的スコアでもあります。国際学部の英語教育は、卒業時に英語を用いてビジネスの現場や生活に積極的に参加できる実践的な英語運用能力を身につけ、グローバルに活躍できる社会人を養成することに主眼を置き、TOEIC® スコア600を標準到達目標と設定しています。

2. 発展的学修目標

国際学部では、標準到達目標であるTOEIC® スコア600を達成した学生には、商社や企業の海外部門が求める、より高度で実用的なビジネス英語を修得した人材の指標とされているTOEIC® スコア730以上を発展的学修の目標とします。

この目標達成に向け、ネイティブ教員が、聴解能力、口頭表現の教育に携わり、英語圏で学位を取得、または、英語圏に留学経験のある日本人担当教員が文章表現、読解を担当し、ネイティブ教員と日本人教員が協力して英語の技能教育を行います。

週4日の英語必修科目を2年間通して学修することに加え、「Exam Prep. I」～「Exam Prep. VI」などのTOEIC® やTOEFL® の英語能力検定に向けた実践的な対策科目や、英語による講義科目を履修するほか、3年次以降に設置する高度の英語科目を継続的に履修することにより、TOEIC® スコア730以上の実現を目指します。

上記の学修目標の達成に向けて、国際学部では、TOEIC® IPを受験する機会を複数回設け、受験を推奨し、学修目標の達成度を測ります。

日本語教育カリキュラムについて

大学での専門教育科目・共通教育科目の理論と知識を学び理解すること、そして日本国内での就職や大学院進学など志望進路に進むことができるよう、みなさん一人ひとりの日本語能力のレベルに合わせて着実に日本語能力を上げられるよう、みなさんをサポートします。

(1) 日本語能力試験 (JLPT) N2・N1をとろう！

○留学生のみなさんが大学での専門教育科目・共通教育科目を学ぶためには、日本語能力試験 (JLPT) N2相当以上の日本語能力が必要とされます。大学院への進学を志望する留学生のみなさんはさらに高度で専門的な日本語能力が求められることは言うまでもありません。

○卒業後、学部で学んだ専門知識と日本語能力を活用して、日本で就職しキャリアを切り開こうという留学生もたくさんいます。日本での就職のためには、「読む・書く」力も必要ですが、特に「聞く・話す」力が求められます。日本語能力試験 (JLPT) N1相当の日本語能力を身につけ、ビジネスマナーも含め、企業で求められる日本語コミュニケーション能力を身につけられるよう、日本語学修、専門演習や講義での学修、「国際キャリアデザイン演習」の履修などに取り組んでください。

(2) 目標別授業科目

- 日本語科目は、以下のとおり目標別授業科目になっています。
- 1年生と3年次編入生は入学時のプレイスメントテスト結果に基づいて、履修する科目とクラスを指定します。
- 2年生は1年生の日本語科目の成績や日本語能力試験 (JLPT) の成績に応じて、履修する科目とクラスを指定します。(必ず履修してください)

科目	目標レベル
日本語Ⅰ・日本語Ⅱ	日本語能力試験N2相当レベル
日本語Ⅲ・日本語Ⅳ	
日本語Ⅴ・日本語Ⅵ	日本語能力試験N1相当レベル
日本語読解・日本語表現・日本語会話	
日本語総合演習A・B	

(3) 日本語科目の履修モデル

- ①日本語能力試験N3相当の留学生の場合：2年間をかけてN1相当をめざします。

1年生春	1年生秋	2年生春	2年生秋
日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語総合演習A	日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語総合演習B	日本語Ⅴ 日本語Ⅵ 日本語読解 日本語会話	日本語表現

- ②日本語能力試験N2相当の留学生の場合：1年間をかけてN1相当をめざします。

1年生春	1年生秋	2年生春	2年生秋
日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語総合演習A	日本語Ⅴ 日本語Ⅵ 日本語総合演習B	日本語読解 日本語会話	日本語表現

- ③日本語能力試験N1相当の留学生の場合：日本語能力を総合的に高めます。

1年生春	1年生秋
日本語総合演習A	日本語総合演習B

(4) 日本語能力試験対策講座を実施します。

- 日本語能力試験対策講座を資格講座として実施しています。ぜひ対策講座を受講し、日本語能力試験の合格をより確かなものとしてください。詳細は改めて案内しますので、確認してください。

(5) 国際教育交流センターの自主学修講座も活用しよう！

- 留学生のみなさんをさまざまな側面から支援する国際教育交流センターでは、留学生の日本語学習サークル「J-Land」が自主学習講座を実施しています。日本語能力試験N1を取得した先輩留学生や日本人学生も、みなさんの日本語学修を楽しく応援しています。ぜひ参加してください。
- 国際教育交流センターには、日本語学習の教材も豊富に揃えられています。また、日本語の教員も国際教育交流センターで「オフィスアワー」を実施しており、日本語学修のアドバイスも受けられます。

(6) 日本で就職を希望するなら「国際キャリアデザイン演習」「国際キャリア演習」を履修しよう！

- 日本で就職を希望する留学生のみなさんが必ず知っておかなければいけないことは主に3つあります。

- (1) 日本は「新卒一括採用」のため、3年生のうちから就職活動の準備が必要

「新卒一括採用」とは、企業が卒業予定の学生（新卒者）を対象に年度毎に一括して求人し、在学中に採用試験を行って内定を出し、卒業後すぐに勤務させるとい、世界に類を見ない日本独特の雇用慣行です。このように、日本の企業の採用活動は、大学を出たばかりの新卒学生を重視する傾向にあります。また、採用活動は一定の期間に集中し、他の時期には採用をあまり行いません。

このため、卒業後日本の企業で働きたいのであれば、このスケジュールの流れを知り、大学3年生のうちから就職活動に向けて準備をすることが必要です。4年生には学業と並行しながら就職活動を行い、10月までに内定を獲得して進路を決定できるよう、計画的に進めることが求められます。

- (2) 日本語能力試験1級 (N1) 相当の日本語運用能力が必須

日本で仕事をする場合、日本語でのコミュニケーション能力が絶対条件です。

この条件を満たすには、学生のうちから、日本語能力試験 (N1) 相当の日本語能力を修得する必要があります。

- (3) 卒業後は「在留資格変更」が必須
みなさんがもっている在留カードまたは外国人登録証明書に記載されている在留資格は「留学」となっていますが、このままでは卒業後日本に在留することはできません。留学生のみなさんが日本国内の企業に就職し、引き続き日本に在留することを希望する場合は、「出入国及び難民認定法」に定める手続きにより、「留学」から、「技術・人文知識・国際業務」など、就労できる在留資格への変更手続きを、卒業後必ず行わなければなりません。
- 以上3つのことについて確実に学ぶため、2年生には「国際キャリアデザイン演習」3年生には「国際キャリア演習」という授業を用意しています。
- 日本での独特の雇用環境を理解し、希望する業界や企業への就職を実現するため、ぜひ履修してください。

本学の国際教育プログラムは、グローバルな舞台に積極的に挑戦し世界に飛躍できる人材の育成を図るため、学生のグローバル化への対応力を段階的に強化することを目的として実施されてきました。そのため、＜ステージ1＞には、成長を支えるモチベーション形成と海外への心理的障壁の克服を主な目的とする海外協定校あるいは提携機関における短期の語学研修と体験型プログラムを、＜ステージ2＞には、英語運用能力とコミュニケーション能力の集中的な学修を目的とする英語圏1セメスター留学を、＜ステージ3＞には、専門学修と希望進路の実現に資する難易度の高いプログラムを配置しています。

本学における海外留学及び海外体験は、言語運用能力の向上はもとより、異なる文化や言語をもつ人々との言語あるいは非言語によるコミュニケーションという主体的な活動の場を提供するためのものです。学修、交流など、学生たちの主体的な活動への参加を促し、言語・文化が異なる人々と様々な形のコミュニケーションを通して豊かな関係を構築することを重要目的としています。英語をはじめとする外国語が生活の中で使用されている国・地域での学修と生活、そこでの種々の活動と実体験は、国際理解を深め、国際性を養うという点で意義をもっています。

- ア) 留学・体験科目において「海外語学研修」、「フィールド・プロジェクトⅠ」の、いずれか1科目を選択必修（1年次履修）とします。
- イ) 1年次の「海外語学研修」あるいは「フィールド・プロジェクトⅠ」を通して発見した課題に更に取り組むため、2年次以降において、留学・体験科目の「フィールド・プロジェクトⅡ」に参加することを推奨します。
- ウ) 学生の希望進路や関心に合わせて、より発展的なプログラムである海外協定校における英語圏1セメスター留学、海外協定校との半年ないし1年の交換留学を効果的に活用します。

(1) 海外語学研修

1. 概要

アメリカ、カナダ、ニュージーランドの海外協定校での4週間の英語研修です。事前学修（6時間：2時間×3回）、海外現地での英語授業（80時間）、事後学修（4時間：2時間×2回）、で構成されます（学修時間：計90時間）。単位は2単位です。

2. 目的

英語の4技能（文章表現・読解・聴解・口頭表現）について集中的に学び、英語運用能力を高めることを目標とします。また、海外での生活、社会・文化体験、学生や市民との交流などを通じて、異文化への理解を促進し、学修動機の向上を図ります。

3. 研修先

研修先	国・地域	時期（予定）
ナショナル大学	アメリカ・カリフォルニア州、サンディエゴ	詳細は4月にお知らせします。
サンフランシスコ州立大学	アメリカ・サンフランシスコ	詳細は4月にお知らせします。
トロント大学	カナダ・オンタリオ	2019年8月上旬から下旬
ディーキン大学	オーストラリア・ビクトリア州、メルボルン	2019年8月中旬から9月下旬
オークランド大学	ニュージーランド・オークランド	2019年8月中旬から9月下旬
ワイカト大学	ニュージーランド・ハミルトン	2020年2月上旬から3月上旬

※研修先、派遣時期は変更される場合があります。

4. 実施時期

夏季の休業期間中に実施する。一部は春季の休業期間中に実施することがあります。

(2) フィールド・プロジェクトⅠ・Ⅱ

1. 概要

海外における約1週間のプロジェクト研修であり、担当教員が引率します。事前学修（12時間：2時間×6回）、出発前合宿（16時間）、海外現地研修（56時間：8時間×7日間）、事後学修（6時間：2時間×3回）で構成されます（学修時間計90時間）。単位は2単位です。

いずれの研修先についても、プログラムは、英語（一部、現地語も含む）の授業、研修国・地域に関する講義、学生や市民との交流、ボランティア活動などで構成されます。

2. 目的

① フィールド・プロジェクトⅠ

この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約1週間の体験・研修から構成されます。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とします。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の向上を図ります。

② フィールド・プロジェクトⅡ

この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約1週間の体験・研修から構成されます。「フィールド・プロジェクトⅠ」の履修で発見した課題を踏まえ、国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とします。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の向上を図ります。

3. 研修先

研修先	国・地域	時期（予定）
ナショナル大学	アメリカ・カリフォルニア州、サンディエゴ	夏季
クリーブランド州立大学	アメリカ・オハイオ州、クリーブランド	夏季
スウィンバン工科大学	オーストラリア・ビクトリア州、メルボルン	夏季
上海工商外国語専修学院	中国・上海	夏季
崇実大学校	韓国・ソウル	夏季
マレーシア国立大学	マレーシア・クアラルンプール	夏季または春季
ワイカト大学	ニュージーランド・ハミルトン	春季
チュウバンアン高校	ベトナム・ハノイ	春季
カンボジア国立経営大学	カンボジア・プノンペン、シェムリアップ	春季

4. 実施時期

夏季と春季の休業期間中に実施します。

(3) 英語圏1セメスター留学

1. 概要

英語圏にある海外協定校への1セメスターの英語留学です。

2. 目的

国際学部在教育目標の1つである「豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力」の修得のためには、海外留学によって現地での学修と生活の中で能力を高めることが有効な方法です。

1セメスター（15週間以上）の期間を、英語圏で過ごし学修することで、英語運用能力、コミュニケーション力の向上とグローバルな視点からの思考力を身につけることを目的とします。

3. 留学先

研修先	国・地域	時期（予定）
ナショナル大学	アメリカ・カリフォルニア州、サンディエゴ	2019年9月上旬から12月下旬
サンフランシスコ州立大学	アメリカ・カリフォルニア州、サンフランシスコ	2019年8月中旬から12月中旬
エンボリア州立大学	アメリカ・カンザス州、エンボリア	2019年8月上旬から12月中旬
クリーブランド州立大学	アメリカ・オハイオ州、クリーブランド	2019年8月下旬から12月中旬
トロント大学	カナダ・オンタリオ州、トロント	2019年9月上旬から12月下旬
グリフィス大学	オーストラリア・クイーンズランド州、ブリスベン	2019年9月上旬から12月下旬
ディーキン大学	オーストラリア・ビクトリア州、メルボルン	2019年8月中旬から12月下旬
スウィンバン工科大学	オーストラリア・ビクトリア州、メルボルン	2019年8月下旬から12月下旬
ワイカト大学	ニュージーランド・ハミルトン	2019年8月下旬から12月中旬
ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)	イギリス・ロンドン	2019年7月下旬から12月中旬

4. 実施時期

8月あるいは9月からの15～16週間

(4) 交換留学

1. 概要

海外協定校への半年から1年の交換留学。

2. 目的

海外協定校との協定に基づく学生交換を行い、専門知識の学修を主な目的とします。世界各国から集まった留学生が共に学び生活する環境が用意されており、様々な知識の修得と共に世界のさまざまな人々と広くコミュニケーションを図ります。

3. 交換留学可能な海外協定校

詳しくは、国際教育交流センターの留学パンフを参照して下さい。

4. 実施時期

3月あるいは4月、8月あるいは9月から、半年あるいは1年間。

(1) インターンシップ

国際学部は、「専門教育科目」の「キャリア形成科目」において「インターンシップ」として単位認定（2単位）を行い、キャリア教育における重要な科目として位置付けています。

インターンシップ参加者は、毎年、企業をはじめ地方公共団体や非営利法人、法律事務所、会計事務所、議員事務所等、多岐にわたる事業所へ派遣されます。

実習の概要

実習生は受入事業への派遣前に、ビジネスマナーと業界理解に関する事前研修に参加し、実習先で求められる基本的ビジネススキルを培います。実習生は、実習期間中、事前研修、実習内容で学んだことや今後の課題等を「業務日誌」に毎日記入し、受入事業所へ提出します。

実習終了後、受入事業所は実習生の「評価報告書」を大学に提出し、実習生は「体験レポート」を大学に提出することになっています。さらに、実習生は後日開催される「インターンシップ体験報告会」に参加し、インターンシップの成果について、発表を行います。

(2) 海外インターンシップ

国際学部では、本学学生のインターンシップ受入実績がある海外の企業を中心として、2週間程度の海外インターンシップを提供します。

実習の概要

実習生は受入事業への派遣前に、ビジネスマナーと業界理解に関する事前研修に参加し、実習先で求められる基本的ビジネススキルを培うとともに、渡航先の政治・経済事情、文化、歴史などの講座を受講し、渡航先の社会全般に関する基本的理解を深めます。

実習生は、実習期間中、事前研修、実習内容で学んだことや今後の課題等を「業務日誌」に毎日記入し、実習終了後、「業務日誌」とともに「体験レポート」を大学に提出することになっています。さらに、実習生は後日開催される「インターンシップ体験報告会」に参加し、海外インターンシップの成果について、発表を行います。

Ⅲ キャリア支援 プログラム

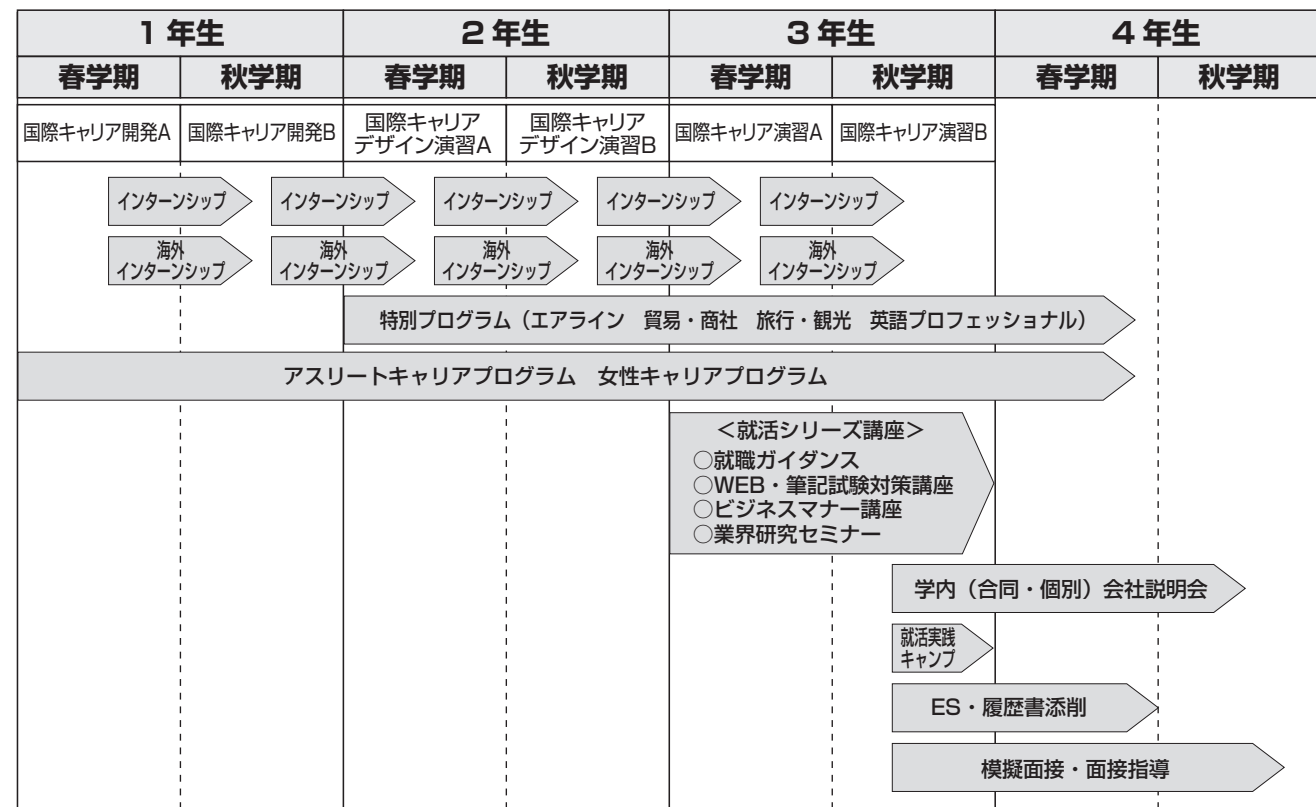
(1) キャリア形成のための科目

国際学部では、「キャリア形成科目」を設定し、4年間を通じた段階的・体系的なキャリア教育を行い、国際コミュニケーション力と国際協働力を中心に、グローバル人材に必要な素養を涵養するとともに、社会的・職業的自立に必要な能力を養成します。「キャリア形成科目」ではグループワーク等のアクティブ・ラーニングにより、自己表現力（プレゼンテーション力）や意思疎通力をはじめとするコミュニケーション能力と協働して課題に取り組む能力の向上を図ります。

共通教育科目	国際キャリア開発A・B、国際キャリアデザイン演習A・B、国際キャリア演習A・B
国際学部専門教育科目	インターンシップ、海外インターンシップ

(2) キャリア形成支援プログラムの概要

●キャリア支援プログラムの全体像は次のようになっています。



国際キャリア開発A・B (1年生：春・秋学期)	この科目は、1年生の履修推奨科目であり、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するとともに、グローバル人材に求められる能力と態度について理解することを目標としています。この社会観と職業観を深めるために、キャリア形成の意義目的をテーマとする講義のほか、実社会の仕事に関するケーススタディやグループワーク、グローバルな舞台で活躍する実務家を招いた講演などが盛り込まれています。授業では講義とグループワークを通して、「勤労観・職業観の価値観、意欲・態度」、「創造力・論理的思考力」、「基礎的・汎用能力」のキャリア形成に必要な3大能力要素を培うための課題に取り組むとともに、「異文化理解と多文化共生を踏まえたワークスタイル」、「外資系企業の特徴」、「海外勤務の特性」、「日本国内におけるグローバルキャリア」について理解を深めながら、グローバル化における自らのキャリアデザインをイメージしていきます。 ○社会と企業、企業と労働を考える ○労働とは何か ○企業と雇用・賃金 ○海外で働くことの意義（グローバル人材について考える）
----------------------------	---

国際キャリアデザイン演習A・B (2年生：春・秋学期)	この科目は、1年次の国際キャリア開発A・Bで培った社会観・職業観を土台に、自己理解、社会理解、職業理解をさらに深め、将来に向けたキャリアデザインとグローバル人材に求められる能力開発を課題としながら、社会人基礎力の養成を目標としています。そのために少人数対話型の演習の特性を生かしつつ、グループワークとその成果の発表を中心に授業を進めることで、国際社会で活躍するために必要な「国際コミュニケーション力」と「国際協働力」を養成します。具体的には、「基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）」を培うとともに、卒業後の進路をイメージして、①異文化理解と多文化共生を踏まえたワークスタイルの理解、②外資系企業における採用形態、キャリアパス等の特性の理解、③海外勤務の特性の理解、④日本国内におけるグローバルキャリアの理解、等の課題に取り組めます。 以上の取組を通じて、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材として、求められる資質・素養を理解し、グローバル社会における自らのキャリアデザインをイメージするための諸課題を認識できるようになります。 ○将来の進路について理解を深める（日本国内で働く） ○将来の進路について理解を深める（海外を舞台に働く） ○社会人基礎力について考える ○グローバル人材について考える ○職種について考える ○業界について考える（サプライチェーンと産業） ○業界について考える（グローバル人材を求める業界）
--------------------------------	---

国際キャリア演習A・B (3年生：春・秋学期)	卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を育成します。卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な職業観と、広く世界で活躍するビジネスパーソンに求められる素養の育成を目標としています。グローバル人材を必要とする業界・業種の現状と課題について考察するとともに、多国籍・多文化人材の活用を前提としたダイバーシティ・マネジメントについて学修します。国際的な舞台で活躍できる人材を求める企業や団体への就職を目指した実践的課題を中心に取り組むことで、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を育成します。 ○将来の進路に向けた自己理解・自己分析に取り組む ○グローバル人材としての強みを理解し表現する ○業界企業研究（国際学部生の想定進路を中心に） ○志望動機を作成する ○希望進路の実現に向けて就職活動を理解し準備する
----------------------------	--

インターンシップ (学外研修) —就業体験— (経済学部・法学部・国際学部 全学年)	インターンシップは、夏季休業期間（夏休み）や春季休業期間（春休み）を利用して、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うものです。実習を通じて、社会や職業への理解を深め、自己理解を深めることで、将来の進路や職業の選択に向けた就業観を養成します。事業所への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスと研修を実施し、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、約2週間程度（実働10日間）の実習を行います。実習期間終了後、参加者全体で報告を行い、体験レポートを作成することで、インターンシップの成果と課題を認識します。また、本学のインターンシップでは、地方出身者のためのプログラムや留学生対象のプログラムも取りそろえています。さらに本学では、独自のインターンシッププログラムとして、職場見学プログラム、2大学合同プログラム、八尾商工会議所青年部プログラム等、多彩なプログラムを企画しており、1年生から複数回の参加を推奨しています。昨年度は、企業や地方自治体、法律事務所、会計事務所、学校、NPO法人などで200名を超える学生がインターンシップに参加しました。 ○事前研修（ビジネスマナー講座・実践講座） ○事業所での実習（＝就業体験） ○インターンシップ全体報告会（夏季・春季） ※要件を満たすことで単位認定あり（詳細の問合せは八尾駅前キャンパスキャリアセンターまで）
--	--

海外インターンシップ (経済学部・法学部・国際学部 全学年)	日本企業の海外進出など、グローバル化に対応したインターンシッププログラムとして海外インターンシップを実施しています。海外の企業で職場体験をするプログラムであり、研修先では英語や現地の言語も使用し職務を行い、派遣国での生活や人々との交流も体験できます。本学では、アメリカ・ヨーロッパ・東南アジア諸国など充実したプログラムを用意しています。 <主な派遣先等> インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ミャンマー等の東南アジア諸国に進出している日系企業での就業体験、さらにヨーロッパ（フランス、イタリア、ドイツ）での商品買い付け業務などを内容とするバイヤー体験コースやベトナムに進出した日系企業十数社を見学するコースも設けています。 ※要件を満たすことで単位認定あり（詳細の問合せは八尾駅前キャンパスキャリアセンターまで）
--------------------------------------	--

(3) 女性キャリアプログラム（男女共同参画、ダイバーシティ教育）

本学では、結婚や出産・育児など様々なライフイベントを経験しながら職業的・社会的に自立した「しなやかな女性」になるための素養を大学時代に身につけることを目標とした「女性キャリアプログラム」を実施しています。実際に企業で活躍する女性の方々によるセミナーやメイク講座など、様々な形で学ぶ機会があります。

また、女性のキャリアを入口とする諸問題（ワークライフバランス、雇用に関する法律、産前産後休暇や育児休暇など働き方改革に対する企業の取り組みや、女性管理職登用等）を男女で共に考え取り組む授業を実施するなど、今後の社会に不可欠な「ダイバーシティ&インクルージョン」（多様性の受容）についての理解を探ることができます。

【授業実施プログラム例】

プログラムの種類	概 要
1年生 （「国際キャリア開発A・B」 において2回実施）	ジェンダー（性別）の違いが社会生活にどのように作用しているのか、また国によってどのような違いがあるのかをディスカッションしながら、雇用の問題について考えます。
2年生 （「国際キャリアデザイン演習A・B」において2回実施）	「働く」ことに関する法律や世界の女性活躍事例などから、ジェンダーをはじめとして様々な個性をもった人々が共に生き活きと働けるダイバーシティ社会のありようについて考えます。
3年生 （「国際キャリア演習A・B」 において2回実施）	国際サミットで採択された「SDGs」や世界的に大きな潮流となっているダイバーシティ&インクルージョン（多様性の受容）等について学び、今後の進路選択の視点を養います。

※受講生の状況に応じて臨機応変に対応するなかで、授業内容は変更される場合があります。

【任意参加型プログラム例】（女子学生限定）

プログラムの種類	概 要
メイクアップ講座	それぞれの顔立ちの特徴を活かしたナチュラルメイクを学びます。 就職活動をはじめ、どんなシーンにも通用する万能メイクを習得できます。

※プログラム内容は変更される場合があります。

(4) 国際学部特別プログラム（課外講座）

国際学部では、正課の授業と関連させながら正課外のキャリア形成プログラムとして、特別プログラムを用意しています。この特別プログラムは、国際学部生の想定する卒業後の進路に対応して、4コースのプログラム（エアライン／旅行・観光／貿易・商社／英語プロフェッショナル）を用意しており、国際学部生が希望する進路の実現を強力にサポートします。

対象	プログラム内容			
1年生	○ベルリッツTOEIC対策基礎講座 ※1年生は共通プログラムとなり、TOEIC対策の講座で各コースに求められる英語運用能力の向上を図ります。			
2年生 以降	【エアライン】	【旅行・観光】	【貿易・商社】	【英語プロフェッショナル】
	○ANAエアライン スクール ※派遣プログラム	○総合旅行業務取扱管理 者講座 ○国内旅程管理主任者講 座 ○観光英語検定2級講座	○通関士講座 ○貿易実務検定（C級） 講座	○ベルリッツTOEIC対策

ベルリッツTOEIC対策基礎講座

○ベルリッツは、1世紀以上前に言語学者であるベルリッツ博士により創設され、現在では世界50カ国以上で約500のランゲッ
ジセンターを擁する世界最大の語学学校となっており、英語・英会話教育において高い実績と評価を得ています。本学のベル
リッツTOEIC対策講座では、実績豊富なベテラン講師陣による指導により、TOEIC試験の着実なスコアアップを図り、グロー
バル人材に求められる高度な英語運用能力を段階的・体系的に培うことができます。

■エアラインプログラム

○エアライン講座は、ANAエアラインスクール大阪校への派遣プログラムです。ANAの現役キャビンアテンダント・グランド
スタッフを中心とした経験豊富な講師陣が指導にあたり、接遇の基本をはじめ、ANAのエッセンスを取り入れたプログラムと
なっており、エアライン業界への就職を目指す学生にとって大変有意義な講座です。また、講座において一定の成績を収めた修
了者にはANAエアラインスクールからANAグループへの推薦があり、就職活動でも大きなサポートが得られるという特典が付
与されます。なお、本学の学生については、ANAエアラインスクールとの教育連携協定により、特別価格で受講できます。

■旅行・観光プログラム

○旅行業務取扱管理者は旅行業界で唯一の国家資格です。旅行業務取扱管理者の仕事は旅行の企画から契約、実施までの一連の流
れの全てに関わります。具体的には、顧客のニーズに合う旅行商品の企画、宣伝広告、契約時の説明や必要書類の交付、ツアー
の実施、実施後のフォローまで、管理・監督者としての役割を担う重要な職務が任されることになります。なお、旅行業務取扱
管理者資格は大きく分けて2種類あります。「国内旅行業務取扱管理者」は、国内旅行に関わる業務のみ扱うことができる資格
であり、「総合旅行業務取扱管理者」は国内・海外を問わず旅行業務全般を扱うことができる資格です。旅行・観光プログラム
では、「総合旅行業務取扱管理者」の講座を開講します。

■貿易・商社プログラム

○通関士講座：通関士は、貿易のスペシャリストとして貿易立国である日本に欠かせない、貿易の専門家です。通関士は貿易関係
では唯一の国家資格であり、社会的ニーズが高い職業です。通関士は豊富な知識を使って、「通関書類の作成」や、「通関手続き
の代行」といった通関業務を遂行します。通関士講座では資格取得に必要な知識を体系的に学ぶことができます。
○貿易実務検定（C級）講座：貿易実務検定は、貿易実務のエキスパートとしての能力・知識を客観的に測るものであり、定型業
務をこなすために必要な知識があることを証明することができます。貿易実務検定では、試験科目となる「貿易実務」と「基礎
的な貿易実務英語」を効率よく学ぶことができます。

■英語プロフェッショナルプログラム

○ビジネスのグローバル化が進むにつれて英語の必要性はますます高まっています。ベルリッツTOEIC対策は、ビジネスシーン
で使われる英語を基にリスニングの基礎力をしっかりと身に付けると同時に「使える英語」にレベルアップを目指します。

(5) Athlete Career Program (体育会クラブ生のためのアスリートキャリアプログラム)

体育会クラブ所属の学生を対象に「Athlete Career Program (アスリートキャリアプログラム)」を実施しています。このプログラムは、高い目標を持って体育会クラブ活動に打ち込む一方、将来の進路(就職)として、「公務員」や「リーディングカンパニー」を目指すクラブ生を全力でバックアップします。また、採用側(企業・公務)が期待する体育会クラブ生の資質・行動特性を徹底して養成し、学業との両立サポート、スポーツ活動で養った行動力とリーダーシップを自らのキャリアとして役立てるための支援、アドバイスを行ないます。

～ 2019年度 実施予定のプログラム ～			
■Program 1 Sコース支援 (公務員講座)	2・3年生 対象	申込制	Sコース公務員講座に体育会クラブ生のクラス(アスリートクラス)を設置。クラブ活動と重ならない時間帯(3・4限)で受講できるなど、公務員を目指す全クラブ生を対象にサポートします。 【問合せ先】八尾駅前キャンパス エクステンションセンター
■Program 2 トップアスリート 講演会	全クラブ生 対象	申込不要	著名なトップアスリートやそのアスリートを陰で支えるメンタルトレーナーを招き、目標設定や組織運営、モチベーションの向上など、「人材育成」をテーマとしたアスリートのための講演を開催。 【問合せ先】八尾駅前キャンパス キャリアセンター
■Program 3 学年別アスリート向け キャリアガイダンス	全クラブ生 対象	申込不要	体育会の活動と、就職活動やキャリア形成との繋がりの認識に向けたガイダンスを行います。また、上級生には、より実践的なガイダンスを行い、希望進路の実現を支援します。 【問合せ先】八尾駅前キャンパス キャリアセンター
■Program 4 アスリート向け 企業訪問プログラム	全クラブ生 対象	申込制	卒業後もスポーツに関わりたいと考える学生に対し、業界や企業の見学プログラムを実施。スポーツ用品店やメーカーの業務理解に繋がります。 【問合せ先】八尾駅前キャンパス キャリアセンター
■Program 5 キャリアサポート (専任キャリア相談)	全クラブ生 対象	予約制	キャリアセンターに体育会クラブ生のための専任キャリアスタッフを配置しています。クラブ活動と学業との両立や、将来の進路・就職についてのキャリア相談など、様々な相談に応じます。

(6) 就活シリーズ講座

「就活シリーズ講座」とは、就職活動を控える学部3年生と修士1年を対象に実施する講座です。この講座は、就職活動全般の流れを理解するとともに、就職に対する意識喚起と円滑な就職活動を行うために必要な諸能力の養成を目的とした内容でプログラムを構成しています。具体的なプログラムとしては、就職活動のスケジュールや履歴書の書き方、ビジネスマナー等を学ぶ就職ガイダンスをはじめ、リクナビやマイナビ等の就職情報ナビの活用講座、初期選考で実施される筆記試験やWEBテストの対策講座、面接対策講座、業界研究セミナー等、豊富なメニューを取り揃えています。是非、これらの就活シリーズ講座を受講し、就職活動をやりきることで希望進路を実現してください。

<筆記試験対策を効率よく行いたい人は受講しよう！>

《対象者》

- 筆記試験対策って何をしたらいいの?という人
- 勉強しているけど、まだまだ実力に不安がある人、問題傾向がつかめていない人
- 中～大手企業、人気企業への就職を検討している人

入社試験において避けては通れないものといえば、筆記試験。早めの対策が必要ですが、対策をすれば必ず結果が出ます。例年、この対策を後回しにして、就職活動に追われ苦戦する人がでてきます。

筆記試験対策講座では、

- ・「採用試験で使われる筆記試験について知り、効率の良い対策の取り方を理解する」
- ・「就職試験で求められる学力レベルの養成」を目指します。



●SPI筆記試験対策講座

採用試験では、多くの企業でSPI3と呼ばれる試験が使われています。また、大阪府、大阪市をはじめ公務員採用試験でも導入する自治体が増えてきています。対策講座では、特に「頻出度の高い分野」や、「理解度により点差のつく問題」を重点的に解説し、解答のスピードアップと重点分野の回答率向上を目指します。

※WEB試験対策として、WEB模擬試験を実施予定

●玉手箱筆記試験対策講座

採用試験は様々な種類がありますが、業界により使われる試験の傾向が異なります。この講座では、近年採用試験に取り入れる企業が増えている。

「玉手箱」と呼ばれる試験の対策を行います。この講座に参加して、様々な筆記試験の対策に繋がしましょう。

ガイダンス日程

【春学期】

No.	日程 1	日程 2	内容	
1	5月21日(火)	5月23日(木)	学部別ナビ登録ガイダンス（経済）	学部別ナビ登録ガイダンス（経営）
2	5月28日(火)	5月30日(木)	学部別ナビ登録ガイダンス（国際）	学部別ナビ登録ガイダンス（法学）
3	6月4日(火)	6月6日(木)	ナビ登録ガイダンス（全学部対象）	ナビ登録ガイダンス（全学部対象）
4	6月11日(火)	6月13日(木)	採用選考型インターンシップの探し方	
5	6月18日(火)	6月20日(木)	夏休み採用選考型インターンシップに向けたES対策	
6	6月25日(火)		SPI筆記試験対策講座①	
7	6月27日(木)		SPI筆記試験対策講座②	
8	7月2日(火)		SPI筆記試験対策講座③	
9	7月4日(木)		SPI筆記試験対策講座④	
10	7月9日(火)		玉手箱筆記試験対策講座①	
11	7月11日(木)		玉手箱筆記試験対策講座②	

会場は八尾駅前キャンパスで実施します。
1～5の実施時間は、16時20分から17時20分です。6～11の実施時間は、16時20分から17時50分です。

【秋学期】

No.	日程	内容
1	10月実施予定	業界研究セミナー入門
2		業界研究セミナー①
3		業界研究セミナー②
4		業界研究セミナー③
5		業界研究セミナー④
6		業界研究セミナー⑤
7		業界研究セミナー⑥
8		業界研究セミナー⑦
9		業界研究セミナー⑧
10	11月実施予定	【就活実践Camp準備講座】プログラム内容の紹介等
11		【就活Camp準備講座】グループディスカッション講座
12		【就活Camp準備講座】面接の基本的なポイント講座

会場は八尾駅前キャンパスで実施します。
実施時間は、16時20分から17時20分を予定しています。
秋学期には、毎年様々な企業の方にお越し頂き、業界研究セミナーを実施しています。
その他にも、就活実践Camp参加に向けて、グループディスカッションや面接対策講座などを実施予定です。
また、学部別の就職ガイダンスも予定しています。
詳細については決定次第、学内掲示板やポータルサイトのお知らせでご案内します。

(2) 就活実践Camp（2020年2月6日（木）～8日（土）実施予定）

※日程は変更となる場合があります。
対象学年：学部3年生、修士1年
内容：「就活実践Camp」は、就職活動を控えた3年生および修士1年が、グループディスカッションや模擬面接などの実践経験を積む研修です。民間企業志望クラスと公務員志望クラスごとで、志望先を意識した実践的プログラムを実施しており、「就職活動をやり切る力の育成」を目指しています。今後も、希望の進路を実現させるための実践的プログラムを更に充実させていきます。また留学生向けのプログラムも充実させていく予定です。
詳細については、学内掲示板やポータルサイトのお知らせでご案内します。

【就活実践CampのPoint】

- 就職活動本番直前に、就職活動に必要な全てのこと（就活マナー、自己分析、筆記試験対策、グループディスカッション、模擬面接）を体験
- 企業の人事担当者による模擬面接など、実践型のプログラム
- 約50社程度の企業・官公庁が集まり、業界セミナーを開催

実施プログラム（例）	内容
ガイダンス	面接対策、ビジネスマナー（男女別）、志望分野別ガイダンス
パネルディスカッション	内定を勝ち取った先輩が就活の体験談を語る
面接実践①グループディスカッション	実際に企業・官公庁で出題されたテーマで模擬グループディスカッションを実施
面接実践②個人面接	企業人事担当者による模擬個人面接とフィードバックを実施
面接実践③集団面接	学生が観察側と実施側にわかれて集団模擬面接を実践
合同業界セミナー	約50社程度の企業・官公庁が集結し業界セミナーを開催

※2019年度のプログラムは変更となる場合があります。

この他にも、「留学生ガイダンス」、「留学生就職相談会」等を予定しています

【問合せ先】：キャリアセンター（八尾駅前キャンパス3F）
TEL. 072-920-4713 FAX. 072-920-4718
E-mail：syushoku@keiho-u.ac.jp

●キャリアセンター LINE公式アカウントを友達登録しよう！

LINE@公式アカウントを友達登録すると、ガイダンス情報などのご案内、就職・進路に関する様々な情報をお届けします。

QRコードを読み取って、是非登録してください。



IV そ の 他



資格取得を目指した学習のために

現代は「実力主義の時代」といわれています。能力ある人が社会で活躍できる可能性は、グローバル化、インターネットの時代とともに世界中に広がっています。エクステンションセンターは自分自身を磨き、将来を見据えてスキルアップを目指す学生を全面的にサポートしています。そのために国家試験を始め、資格・検定試験の対策講座を学内開設し、資格取得のための情報提供、相談も行っています。エクステンションセンターの講座で21世紀に活躍する「人材」となってください。

(1) 特修講座（Sコース）

1. 公務員講座

●公務員基礎講座（1年次対策）

この講座は、公務員を目指す方の1年次講座と位置づけられ、公務員試験に必要な基礎力を中心に講義するものです。警察官・消防官を目指す方、あるいは国家公務員・地方公務員を目指す方の基礎講座です。

●公務員養成講座（2年次対策）

この講座は、公務員を目指す方の2年次講座と位置づけられ、公務員基礎講座に引き続き、公務員採用試験に必要な教養科目、専門科目、論作文などを学習します。

●国家一般・国家専門・地方上級講座（3年次対策）

公務員試験を突破するにはそれ相当の準備が必要です。この講座では、公務員養成講座から引き続き、国家一般職などの国家公務員採用試験や地方自治体の職員採用試験合格を目指します。

●教養試験対策講座（3年次対策）

この講座では、公務員養成講座から引き続き、警察官採用試験や消防官採用試験に必要な教養科目を学習していきます。また、二次試験以降で必要となる面接対策や論文対策も行い合格を目指します。

●公務員講座アスリートクラス（2年次対策・3年次対策）

この講座は、公務員採用試験の突破を目指すスポーツ系クラブ生のための公務員試験対策講座です。
公務員採用試験に必要な教養科目の学習を、総合学習（一般科目（国語、数学）、社会情勢、文章理解について90分の時間内に交互に行うもの）という形でい合格を目指します。

2. 法職講座

法科大学院入学試験、司法試験予備試験、司法書士試験、行政書士試験の合格、あるいは法学検定試験の合格を目指す講座です。1年目の「法職基礎講座」は、各試験の共通講座として、憲法・民法・刑法の基礎知識を修得します。基礎講座終了後、各試験ごとに講座が分かれ、法科大学院入学試験・司法試験予備試験・司法書士試験・行政書士試験それぞれの試験科目を基礎からしっかりと学び、その後模擬試験や答案練習等を行い応用力をつけます。

3. 会計職講座

公認会計士試験・税理士試験の合格を目指す講座です。1年目の「会計職基礎講座」では会計の基礎である日商簿記検定試験3級対策から始まり、最終的には実務が出来る日商簿記検定試験2級の合格を目指します。2年目からはコース別の講座になり、公認会計士試験・税理士試験それぞれの試験科目を基礎からしっかりと学習します。

4. 大学院進学講座

多様化した現代社会では専門知識が必要です。また、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培う専門職大学院も増えています。講座では主に経済系大学院入試に必要な知識を学修します。また、大学院入試に必要な時事・小論文の指導を通じて論文・レポート作成能力を向上させます。あわせて大学院入試で必要となる研究計画書の作成などを指導します。

(2) 資格講座

法律系講座

●宅地建物取引士講座

宅地建物取引士は宅地・建物の取引に関する国家試験で、不動産業界や金融業界を中心にニーズがあり、毎年約20万人近くが受験する人気のある試験となっています。この講座では、宅建に関する基礎知識および問題演習を中心に講義を進め、10月に実施される試験合格を目指します。

●社会保険労務士講座

社会保険労務士（通称：社労士）とは、企業における人材の採用から退職までの「労働・社会保険に関する諸問題」や「年金の相談」などに応じる労働・社会保険に関する法律、人事・労務管理の専門家で、企業が発展するための重要なパートナーです。
この講座は、2019年8月から2020年7月までに労働や保険に関する法律を基礎から学び、2020年8月に実施される試験の合格を目指します。

●通関士講座

通関士とは、国家試験である通関士試験に合格した者のうち、通関業者の申請に基づき税関長の確認を受けて、通関業務に従事する者を言います。
この講座では、まず税関手続の基本ルールとなる関税法等の実務に必要な法律知識の分野から学習した後に、実務に直結する内容の学習を始めます。そのため、知識がゼロの初学者でも合格レベルまでムリなく効率的に誘導し、10月に実施される試験の合格を目指します。

●ビジネス実務法務検定3級講座

ビジネス実務法務検定試験とは、ビジネスパーソンにとって必要不可欠なコンプライアンス能力（ビジネスにおいて業務のリスクを察知し、法的にチェックし、問題点を解決に導くスキル）の基礎となる実務的な法律知識を体系的かつ効率的に身に付けることができる試験です。3級のレベルは、ビジネスパーソンとして最低限知っているべき法律実務基礎知識を想定しています。この講座では、法律の基礎から学習し、3級の合格を目指します。

●ビジネス実務法務検定2級講座

ビジネス実務法務検定2級は、企業活動の実務経験があり、弁護士などの外部専門家への相談ができるなど、質的・量的に法律実務知識を有するビジネスパーソンのレベルを想定しています。
この講座では、短期合格を目指すため、インプットとアウトプットを効果的に組み合わせ、「分かる」だけでなく、問題が「解ける」までの力を養います。

経済系講座

●日商簿記3級試験対策講座・2級試験対策講座

簿記とは、日常行われる経営活動を記録し、計算・整理するために必要となる技能のことを言います。
3級試験対策講座は9月に開講、2級試験対策講座は11月に開講し、3級は11月実施の簿記検定での合格、2級は2020年2月に実施される簿記検定での合格を目指す講座になります。また、正課授業と関連付けて学習することもできるため、簿記検定の合格に必要な基礎知識をしっかりと身に付けることができます。

●ファイナンシャル・プランニング（FP）技能士3級講座

ファイナンシャル・プランニングは、ある分野に限定した知識だけでなく、金融、株式、保険、不動産、税金、ローンなど経済・法律の幅広い知識が必要となります。経済学、法学の両方を学べる本学学生にまさに適合した資格です。この講座ではFPの基礎知識を中心にファイナンシャル・プランニング技能検定試験3級の対策をおこないます。

●ファイナンシャル・プランニング（FP）技能士2級・AFP講座

今注目のファイナンシャル・プランナーの国家資格取得講座です。この講座では、金融、証券、保険関係などで、実際に実務で必要とされている知識である「AFP資格」と国家資格「2級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験」を同時に取得します。この講座は本学上級生に勧める講座ですが、初心者や1・2年生にも分かりやすい説明で講義を行い講座生全員の合格を目指します。FP資格を取得し、包括的な資産設計のスペシャリストをめざしてください。

●リテールマーケティング（販売士）3級講座

販売士の入門講座です。この講座では小売業の社会的役割、職場の人間関係、顧客心理、商品陳列、商品の包装、販売事務管理、身だしなみ、接客態度など、「リテールマーケティング（販売士）検定試験3級」に対応した学習を行います。

●リテールマーケティング（販売士）2級講座

販売士3級講座に引き続いて受講することで、実務に必要な知識を取得します。この講座では「販売」に関する多様で、具体的な学習を通して、企業からも需要が高い「リテールマーケティング（販売士）検定試験2級」の合格をめざします。

●ビジネス会計3級講座

企業の経営情報を把握するためには、会計情報を理解できる力（会計リテラシー）が必要になります。この試験では、簿記検定試験のような財務諸表の作成とは違い、財務諸表を理解し、分析するために必要な知識が問われます。この講座では、財務諸表を理解するために必要な基本的知識が問われる3級合格にむけた対策を行います。

●ビジネス会計2級講座

3級が財務諸表分析の基本的な知識が問われるのに対して、2級では企業の事業戦略や経営戦略が理解できる応用的知識が問われます。この講座では、3級では出題されます連結財務諸表の学習から2級合格にむけた応用対策を行います。

●証券外務員二種講座

証券外務員は銀行や証券会社等に所属し、顧客に対して金融商品等を勧誘する等の金融商品取引業務を行うことができる資格です。この講座は外務員資格合格に必要なとなる知識の基礎から試験対策まで行います。

情報系講座

●ITパスポート講座

ITパスポートは、情報処理技術者試験の中で最も易しいレベルの国家試験です。ITパスポート試験では、パソコン操作ができる、データを処理できる、というレベルには留まらず、「経営戦略・マーケティング・財務・法務など経営全般に関する知識」をはじめ、「セキュリティ・ネットワークなどのITの知識」「プロジェクトマネジメントの知識」など幅広い分野の総合的知識を学んでいく試験です。この講座は、正課科目（ハードウェア論、ソフトウェア論、ネットワーク論、情報システム論、情報科学演習）と連携し、ITパスポート試験の合格を目指します。受講をされる前に正課科目で基本的な知識を身に付けておくことをおすすめします。

語学系講座

●TOEIC講座

TOEIC テストは日常からビジネスまでで、どのくらい英語でコミュニケーションができるかを測ることができる世界共通のテストで、世界約150カ国で実施されています。試験は、リスニングとリーディングで構成され、結果は可否ではなくスコアで評価されるため、英語力の証明等に活用することができます。この講座では、TOEICテストのセクションごとに学習を行い、初めて学習する方にもわかりやすい内容で実施していきます。

●観光英語検定2級講座

観光英語は、旅行や観光時の様々な場面での専門的な用語や言い回しなどが含まれていることが特徴で、一般的に中学・高校で習ってきた英語とは一味違ったものとなっています。この観光英語の能力を測るための試験が観光英語検定です。海外旅行を楽しみたい方、海外旅行の計画を独自で調整したい方、更にスペシャリストとして観光英語能力をチェックしたいと思う方には最適な試験です。

●日本語能力試験対策講座

日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験として1984年から開始されました。2011年の受験者数は全世界で約61万人にのぼり、現在では世界最大規模の日本語の試験となっています。日本語能力試験の認定には、企業での優遇や社会的な資格認定など、さまざまなメリットがあります。

スキルアップ系講座

●旅行業務取扱管理者講座

旅行業務取扱管理者は、国家資格であり、国内旅行のみを取り扱うことのできる「国内旅行業務取扱管理者」と、海外旅行も取り扱うことのできる「総合旅行業務取扱管理者」の2種類あり、旅行関連業界を目指す方におすすめの講座です。この講座は、「国内旅行業務取扱管理者試験」と「総合旅行業務取扱管理者試験」の両方に対応したカリキュラムですので、どちらの旅行業務取扱管理者試験にもチャレンジできます。

●国内旅程管理主任者講座

旅程管理主任者は、旅行会社が企画するツアーや団体旅行に同行する主任添乗員に取得が義務づけられる公的な資格です。国内旅行のみ添乗できる「国内旅程管理主任者」と、海外旅行にも添乗できる「総合旅程管理主任者」の2種類があります。この講座では、「国内旅程管理主任者」として業務に従事する際に必要な知識を学習し、実務研修を経験して資格の取得を目指します。

●秘書検定2級講座・準1級講座

秘書検定は社員に求められるビジネスの場におけるマナー・気配り・言葉遣い・振る舞い・機転・対人関係を学んでいく試験です。秘書技能検定2級は一般的な秘書業務を行うための知識と技能が問われ、学生や若い社会人の方から人気があり、実践的なマナーが身につく、オフィスでも通用します。秘書技能検定準1級は、立ち居振る舞いや高いコミュニケーション能力が身につくため、社会人としての常識を有し即戦力となりうる人材として企業から高く評価されています。

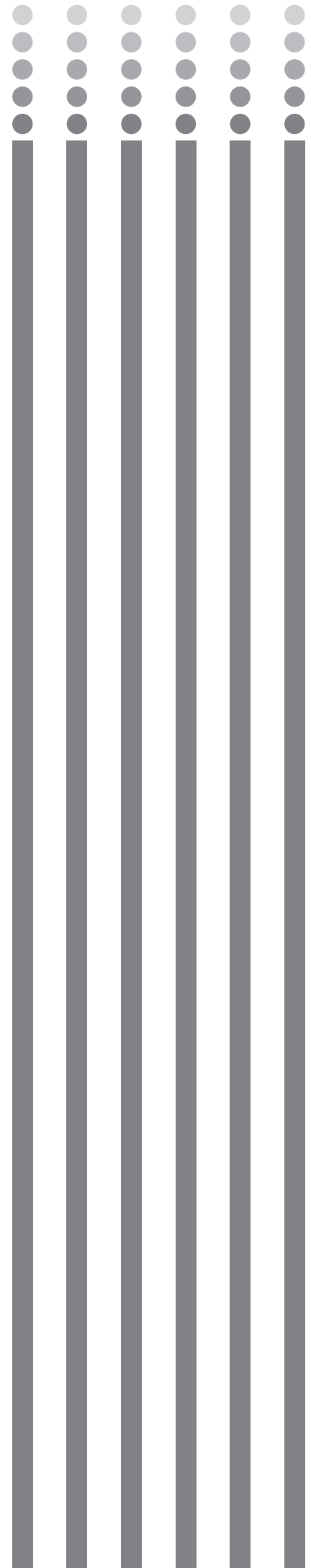
(3) その他（資格等の認定や試験の一部免除）

1. スポーツリーダー（日本体育協会）

本学はスポーツ指導者養成講習会免除適応コース承認校となっており、在学中に「スポーツ指導論」「スポーツ論」「スポーツ管理論」の単位をすべて修得し4年次に申請することで、卒業時に修了証明書とスポーツリーダー認定書が発行されます（発行料6,300円（予定）が必要）。※申請は大学でとりまとめて行う必要があります。詳細は別途お知らせします。

資

料



大阪経済法科大学学則

第1章 総則

- 第1条
- 本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の理念に基づいて、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性と国際感覚にあふれた独創的で実践力に富む人材を育成し、もって社会の発展と平和に貢献することを使命とする。
- 第1条の2
- 本大学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うとともに、文部科学大臣が指定する認証評価機関による認証評価を受けるものとする。
- 2
- 前項の点検及び評価に関する事項については、別にこれを定める。
- 第1条の3
- 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第2章 学部及び学科等

- 第2条
- 本大学に次の学部及び学科を置く。
-
- | | |
|------|------|
| 経済学部 | 経済学科 |
| 経営学部 | 経営学科 |
| 法学部 | 法律学科 |
| 国際学部 | 国際学科 |
- 2
- 各学部学科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。
- （1）経済学部経済学科は、経済学を中心とする幅広い専門知識とその実践的応用能力を有し、内外の社会的状況を考慮しつつ、市民生活や企業の直面する諸問題を理解し、倫理と公共性と責任感を持って、グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。

（2）経営学部経営学科は、経営学を中心とする幅広い専門知識と多様な応用能力を修得し、技術革新やグローバル化の進展によって産業や社会システムが変化する中で、実践的な課題解決力を備え、現代ビジネスの諸課題に主体的・創造的に対応できる人材の育成を目指して、教育研究を行う。

（3）法学部法律学科は、基礎的な法学教育を土台として、法と政治についての高度な専門知識を授け、正義と公平を旨とするリーガルマインドをもって現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成を目指して、教育研究を行う。

（4）国際学部国際学科は、異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけるとともに、幅広い教養と専門性を備え、チームワークとリーダーシップをもって、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成を目指して、教育研究を行う。

- 第2条の2
- 本大学に各学部の共通教育科目等を一括して運営するため、教養部を置く。
- 第2条の3
- 本大学に大学院を置く。
- 2
- 大学院に関する学則は、別に定める。
- 第3条
- 各学部学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	200名	800名
経営学部	経営学科	200名	800名
法学部	法律学科	260名	1,040名
国際学部	国際学科	140名	560名

第3章 授業科目

- 第4条
- 本大学の授業科目を共通教育科目と専門教育科目に分ける。
- 2
- 共通教育科目は、別表1のとおりとする。
- 3
- 各学部において開設する専門教育科目は、別表2のとおりとする。

第4章 修業年限、履修方法及び単位

- 第5条
- 本大学の修業年限は、4年とする。
- 2
- 在学年数は、8年を超えることができない。
- 第6条
- 削除

- 第7条
- 各学部学科の学生の卒業に要する単位数は、次のとおりとする。
- （1）経済学部経済学科

授業科目	単位数
共通教育科目	40単位以上
専門教育科目	70単位以上
その他、共通教育科目及び専門教育科目から	14単位
合計	124単位
- （2）経営学部経営学科

授業科目	単位数
共通教育科目	30単位以上
専門教育科目	80単位以上
その他、共通教育科目及び専門教育科目から	14単位
合計	124単位
- （3）法学部法律学科

授業科目	単位数
共通教育科目	40単位以上
専門教育科目	70単位以上
その他、共通教育科目及び専門教育科目から	14単位
合計	124単位
- （4）国際学部国際学科

授業科目	単位数
共通教育科目	14単位以上
専門教育科目	90単位以上
その他、共通教育科目及び専門教育科目から	20単位
合計	124単位
- 2
- 各学部の学生の卒業に要する単位数には、他学部の専門教育科目の履修により修得した単位を含めることができる。
- 3
- 履修方法その他細則については、別に定める。
- 第7条の2
- 年間に修得すべき標準的な単位数は、31単位とする。
- 2
- 前項の単位数を下回る学生には、修学指導を実施する場合がある。
- 第8条
- 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
- （1）講義及び演習は、15時間の授業をもって1単位とする。

（2）外国語は、30時間の授業をもって1単位とする。

（3）実験、実習及び体育の実技は、30時間の授業をもって1単位とする。
- 2
- 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 第9条
- 経済学部経済学科及び法学部法律学科にそれぞれの教育課程に応じた中学校及び高等学校の教育職員免許状の所要資格を得させるための課程（教職課程）を置く。
- 2
- 教育職員免許状の所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に基づき、必要な授業科目の単位を修得しなければならない。
- 3
- 教育職員免許状の所要資格を得ようとする者のために、開設する授業科目及び単位数は、別表3のとおりとする。
- 4
- 本大学で取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

経済学部経済学科	中学校 教諭 一種免許状（社会） 高等学校教諭 一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭 一種免許状（公民）
法学部法律学科	中学校 教諭 一種免許状（社会） 高等学校教諭 一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭 一種免許状（公民）

第5章 授業科目修了の認定及び学士の学位

- 第10条 学生は、指定された期日内に履修希望の授業科目を届け出て承認を得なければならない。
- 第11条 授業科目修了の認定は、筆記又は口述による試験その他適当な方法による。ただし、演習、実験、実習及び体育の実技等は、平常の成績によることができる。
- 第12条 授業科目修了の認定は、学期末又は学年末に行う。
- 第13条 授業科目修了の認定は、秀・優・良・可・不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。
- 第14条 合格した授業科目については、所定の単位の修得を認める。
- 第14条の2 本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 2 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 4 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、本大学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 5 前各項の定めにより、修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、合わせて60単位を超えないものとする。
- 第15条 4年以上在学して、所定の授業科目につき定められた単位を修得した者には、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。
- 第16条 前条により卒業した者には、次の区分に従い、学士の学位を授与する。
- 経済学部 経済学科 学 士 （経済学）
経営学部 経営学科 学 士 （経営学）
法 学 部 法律学科 学 士 （法 学）
国際学部 国際学科 学 士 （国際学）

第6章 学年・学期及び休業日

- 第17条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第18条 学年は、次の2学期に分ける。
- 春学期 4月1日から 9月30日まで
秋学期 10月1日から 翌年3月31日まで
- 第19条 休業日は、次のとおりとする。
- (1) 日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日、本大学創立記念日（4月26日）
(2) 春季休業 3月21日から4月7日まで
(3) 夏季休業 8月1日から9月30日まで
(4) 冬季休業 12月24日から 1月7日まで
- 2 前項に定めたものの他、学長は、必要に応じて授業を休止又は変更することができる。

第7章 入学、転学部、転学科、休学及び退学

- 第20条 入学の時期は、毎学年始めとする。
- 第21条 本大学の第1年次に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
- (1) 高等学校又は中等教育学校の卒業者

- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学が認めた者

- 第22条 入学者は、検定によって決定する。入学者検定の方法は、その都度定める。
- 第23条 入学に必要な手続は、別に定める。
- 第24条 本大学に編入学又は転入学を願い出る者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。
- 2 前項の規定により、入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする
- (1) 大学（外国の大学を含む。）に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (2) 短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
- (5) その他相当の年齢に達し、前各号に規定する者と同等以上の学力があると本大学が認めた者
- 第25条 本大学に在学する者で、転学部又は転学科を願い出る者があるときは、選考の上、許可することがある。
- 第26条 第24条及び第25条の取扱いに関しては、別に定める。
- 第27条 学生が疾病その他やむを得ない事由のため、休学又は退学を願い出たときは、これを許可することがある。
- 2 休学の期間は、継続2年以内とし、通算して4年を超えることができない。
- 3 休学期間は、第5条及び第15条に規定する在学期間に算入しない。
- 第28条 前条により退学した者が再入学を願い出たときは、選考の上、許可することがある。
- 2 前条により休学した者が復学を願い出たときは、許可を得て復学することができる。
- 第28条の2 入学、転学部、転学科、休学、退学、再入学及び復学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。
- 第29条 他の大学へ入学又は転学を願い出ようとする者は、教授会の審議を経て、学長の許可を受けなければならない。

第8章 留学及び外国人留学生

- 第30条 本大学と学生交換に関する協定を締結している外国の大学又はその他の外国の大学に留学を希望する者があるときは、これを許可することがある。
- 2 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学に入学を願い出る者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。
- 3 前項の外国人留学生に対しては、第4条に掲げるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置く。日本語科目及び日本事情に関する科目について、その開設する授業科目及び単位数は、別表4のとおりとする。
- 第30条の2 留学及び外国人留学生の入学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。
- 第31条 留学及び外国人留学生の取扱いに関しては、別に定める。

第9章 聴講生、科目等履修生及び単位互換履修生

- 第32条 特定の授業科目について聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として許可することがある。
- 2 聴講生の取扱いに関しては、別に定める。
- 第32条の2 特定の授業科目について科目等履修を願い出る者があるときは、本学学生の修学の妨げにならない限り、選考の上、科目等履修生として許可することがある。
- 2 科目等履修生がその履修した授業科目の試験を受け、合格した科目については、単位を与える。
- 3 科目等履修生の取扱いに関しては、別に定める。
- 第32条の3 本大学と協定のある他大学の学生で、協定に基づき本大学が提供する授業科目について履修を願い出る者があるときは、選考の上、単位互換履修生として許可することがある。
- 2 単位互換履修生の取扱いに関しては、別に定める。

第10章 賞罰

- 第33条 特に学術、課外活動等において顕著な功績があり、他の学生の模範となる者は、これを表彰する。
- 第34条 学生に本大学の規則に違反し、又は学生の本分に反する行為があると認めたときは、懲戒を加える。
- 第35条 懲戒処分は、訓告、停学及び退学とする。退学は、次の各号の一に該当する者について行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席が常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- 2

学生懲戒の取扱いに関しては、別に定める。

第11章 入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料

- 第36条

本大学に入学を出願する者は、別表5に定める入学検定料を納付しなければならない。
- 2

科目等履修生として出願する者は、別表6に定める科目等履修生検定料を納付しなければならない。
- 3

転学部又は転学科を出願する者は、別表7に定める転学部検定料または転学科検定料を納付しなければならない。
- 第37条

本大学に入学を許可された者は、別表8に定める入学金を納付しなければならない。
- 第38条

学生は、別表9に定める授業料を納付しなければならない。
- 2

所定の期間内に休学願を提出しこれが許可された場合は、前項にかかわらず、別表10に定める在籍料を納付しなければならない。
- 第39条

聴講生は、別表11に定める聴講料を納付しなければならない。
- 第39条の2

科目等履修生は別表12に定める履修登録料及び履修料を納付しなければならない。
- 第40条

入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料等の徴収については別に定める。
- 第41条

既納の入学検定料、科目等履修生検定料、転学部検定料、転学科検定料、入学金、授業料、在籍料、聴講料、履修登録料及び履修料等は、別に定めのある場合を除き返還しない。
- 第42条

授業料、在籍料その他の学費の納付を怠った者は、除籍する。
- 2

前項により除籍された者が復籍を願い出たときは、選考の上許可することがある。

第12章 教職員組織

- 第43条

本大学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。
- 2

教職員に関する規定は、別に定める。
- 第43条の2

学長は、大学を代表し、建学の理念に基づき、学則その他制規の定めるところにより学務を統括運営する。

第13章 図書館

- 第44条

本大学に図書館を置く。
- 2

図書館に関する規定は、別に定める。

第14章 附属研究機関

- 第45条

本大学に次の附属研究機関を置く。
- (1) 21世紀社会総合研究センター
- (2) 地域総合研究所
- (3) アジア研究所
- (4) アジア太平洋研究センター
- 2

前項に規定する研究機関に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 教授会

- 第46条

本大学に学部教授会及び教養部教授会を置く。
- 第47条

削除
- 第48条

削除
- 第49条

削除
- 第50条

各学部及び教養部教授会は、各学部及び教養部所属の教授、准教授、講師、助教及び助手をもって構成され、各学部長又は教養部長が招集して議長となる。
- 第51条

教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- (1) 学生の入学、再入学及び卒業
- (2) 学位の授与
- (3) 教育課程編成に関する事項

- (4) 学生の転学部、転学科、他大学への入学又は転学、休学、退学、復学及び留学に関する事項
- (5) 学生の懲戒処分に関する事項
- (6) 教員資格審査に関する事項
- (7) 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして、学長が定めるもの
- 2

教授会は、前項に規定するもののほか、学長、学部長及び教養部長（以下、「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第52条 各学部及び教養部の教授会に関する規定は、別に定める。

第16章 大学協議会

- 第53条

本大学に大学の運営に関する重要事項について審議するため、大学協議会を置く。
- 第54条

大学協議会は、次の各号に掲げる者をもって構成され、学長が招集して議長となる。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長補佐
- (4) 各学部長及び教養部長
- (5) 研究科長
- (6) 部館所長
- (7) 各学部及び教養部から選出された専任教授
- (8) 法人本部長
- (9) 事務局長

第55条 大学協議会における審議事項は、次のとおりとする。

- (1) 大学の制規及び機構に関する事項
- (2) 大学の予算及び大学の事業計画
- (3) その他学務に関し学長から諮問された事項
- (4) 理事長から諮問された事項

第56条 大学協議会に関する規定は、別に定める。

附則

- 1

この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2

第2条、第3条、第7条、第16条、別表1、別表2、別表3及び別表5から別表12までの改正は、平成31年度入学者から適用し、平成30年度以前の入学者については、なお従前の例による。ただし、別表1（1）(3)及び別表2（1）(3)（4）の新規開設科目については、平成30年度以前の入学者にも適用する。
- 3

経済学部経済学科、経営学部経営学科の収容定員は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成31年度、平成32年度及び平成33年度については次のとおりとする。

学部学科	平成31年度	平成32年度	平成33年度
経済学部 経済学科	680名	720名	760名
経営学部 経営学科	200名	400名	600名

- 4

経済学部経営学科については、改正後の学則にかかわらず、当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

<別表1>

(2) 平成31年度 共通教育科目(国際学部国際学科)

学科目	授業科目	単位	備 考
共通教育科目	文章表現入門	2	共通教育科目から14単位以上を修得すること
	基礎体育A	1	
	基礎体育B	1	
	哲学	2	
	日本史	2	
	日本近現代史	2	
	西洋史	2	
	考古学	2	
	文化人類学	2	
	文学	2	
	言語学	2	
	教育学	2	
	心理学	2	
	日本国憲法	2	
	法学	2	
	政治学	2	
	経済学	2	
	地理学	2	
	社会学	2	
	日本事情入門	2	
	現代日本事情	2	
	科学技術史	2	
	化学と生活	2	
	統計学Ⅰ	2	
	統計学Ⅱ	2	
	情報システム論	2	
	ソフトウェア論	2	
	ネットワーク論	2	
	ワープロ実践	2	
	表計算実践	2	
	データベース実践	2	
	デジタルプレゼンテーション	2	
	ワープロ応用	2	
	表計算応用	2	
	プログラミング実践	2	
	情報科学演習	2	
	環境論	2	
	環境フィールドスタディⅠ	2	
	環境フィールドスタディⅡ	2	
	平和学	2	
	マスコミ論	2	
	地域文化論	2	
	芸術学	2	
	河内学	2	
	現代社会学	2	
	現代社会と人権	2	
	現代社会と教育	2	
	現代社会と健康	2	
	現代社会と日本語	2	
	現代社会と科学	2	
	現代社会とビジネス	2	
	現代社会と観光	2	
	現代社会とメディア	2	
	人権の諸問題	2	
	海運と港湾	2	
	日本の水産業と世界の水産業	2	
	日本の農業	2	
	世界の農業	2	
	地球と環境	2	
	環境と経営	2	
	環境と社会	2	
	環境と海洋	2	
	環境と生態	2	
	環境保全論	2	
	環境演習A	2	
	環境演習B	2	

学科目	授業科目	単位	備 考
共通教育科目	ビジネスリテラシー	2	
	総合演習a	2	
	総合演習b	2	
	フランス語Ⅰ	2	
	フランス語Ⅱ	2	
	中国語Ⅰ	2	
	中国語Ⅱ	2	
	韓国語Ⅰ	2	
	韓国語Ⅱ	2	
	ロシア語Ⅰ	2	
	ロシア語Ⅱ	2	
	日本語Ⅰ	2	
	日本語Ⅱ	2	
	日本語Ⅲ	2	
	日本語Ⅳ	2	
	日本語Ⅴ	2	
	日本語Ⅵ	2	
	中国語総合演習A	2	
	中国語総合演習B	2	
	ロシア語総合演習A	2	
	ロシア語総合演習B	2	
	日本語総合演習A	2	
	日本語総合演習B	2	
	中国語会話	1	
	韓国語会話	1	
	日本語読解	1	
	日本語会話	1	
	日本語表現	1	
	中国語コミュニケーション演習	4	
	韓国語コミュニケーション演習	4	
	健康科学論	2	
	心とからだの病理学	2	
	身体運動科学	2	
	スポーツ論	2	
	生涯スポーツA	1	
	生涯スポーツB	1	
	フィットネス実習A	1	
	フィットネス実習B	1	
	トレーニング演習A	2	
	トレーニング演習B	2	
	身体管理論	2	
	スポーツ指導論	2	
	スポーツ管理論	2	

<別表2>

(3) 平成31年度 国際学部 国際学科 専門教育科目

学科	授業科目	単位	備 考
国際学科	異文化理解	2	Intensive English W/RⅠ、 Intensive English W/RⅡ、 Intensive English L/SⅠ、 Intensive English L/SⅡ の4科目8単位を含め、20単位以上を修得すること
	日本史概論Ⅰ	2	
	日本史概論Ⅱ	2	
	世界史概論Ⅰ	2	
	世界史概論Ⅱ	2	
	国際政治学Ⅰ	2	
	国際社会と法	2	
	市民社会と法	2	
	日本と国際法	2	
	Intensive English W/RⅠ	2	
	Intensive English W/RⅡ	2	
	Intensive English L/SⅠ	2	
	Intensive English L/SⅡ	2	
	Exam Prep.Ⅰ	2	
	Exam Prep.Ⅱ	2	
	情報リテラシーⅠ	2	
	情報リテラシーⅡ	2	
	メディアリテラシー	2	
	コミュニケーション論	2	
	ミクロ経済学Ⅰ	2	
	マクロ経済学Ⅰ	2	
	経営学概論	2	10単位以上を修得すること
	国際ビジネス概論	2	
	日本文化論	2	
	比較文化論	2	
	多文化共生社会論	2	
	Japanese Culture	2	
	Japanese History	2	
	Japanese Society	2	
	Japanese Geography	2	
	Japanese Law and Society	2	
	Comparative Culture	2	
	Comparative Legal System	2	
	ジェンダー論	2	
	宗教学	2	
	社会思想史	2	
	アジア史	2	
	アメリカ史	2	
	アメリカ外交史	2	
	ヨーロッパ史	2	
	現代中国事情	2	
	現代東南アジア事情	2	
	現代オセアニア事情	2	
	現代アメリカ事情	2	
	現代ヨーロッパ事情	2	
	現代中東事情	2	
	Regional Studies (Asia)	2	
	Regional Studies (Oceania)	2	
	Regional Studies (America)	2	
	Regional Studies (Europe)	2	
	国際政治学Ⅱ	2	
	国際関係論	2	
	安全保障と国際法	2	
	国際紛争の平和的解決と国際法	2	
	核問題と安全保障	2	
	International Relations and Law (Introduction to International Law)	2	
	国際協力法	2	
	国際人権法	2	
	国際社会と人の移動	2	
	International Migration	2	
	Multiculturalism in Modern Society	2	
	異文化適応論	2	
	政治地理学	2	
	NPO・NGO論	2	
	地方自治と国際協力	2	
	国際機構論	2	

学科	授業科目	単位	備 考
国際学科	比較税制論	2	
	社会保障の国際比較	2	
	都市計画の国際比較	2	
	資源・エネルギー論	2	
	Advanced English W/RⅠ	2	
	Advanced English W/RⅡ	2	
	Advanced English L/SⅠ	2	
	Advanced English L/SⅡ	2	
	Academic WritingⅠ	2	
	Academic WritingⅡ	2	
	Business CommunicationⅠ	2	〈国際コミュニケーションコース〉
	Business CommunicationⅡ	2	
	Exam Prep.Ⅲ	2	
	Exam Prep.Ⅳ	2	
	Exam Prep.Ⅴ	2	Advanced English W/RⅠ、 Advanced English W/RⅡ、 Advanced English L/SⅠ、 Advanced English L/SⅡ の4科目8単位を含め、20単位以上を修得すること
	Exam Prep.Ⅵ	2	
	Comprehensive EnglishⅠ	2	
	Comprehensive EnglishⅡ	2	
	Current Affairs	2	Advanced English W/RⅠ、 Advanced English W/RⅡ、 Advanced English L/SⅠ、 Advanced English L/SⅡ の4科目8単位を含め、30単位以上を修得すること
	Readings for Global IssuesⅠ	2	
	Readings for Global IssuesⅡ	2	
	翻訳実践	2	
	観光英語	2	〈グローバルキャリアコース〉
	貿易英語	2	
	日本語文章表現Ⅰ	2	
	日本語文章表現Ⅱ	2	
	日本語コミュニケーション技法Ⅰ	2	
	日本語コミュニケーション技法Ⅱ	2	
	アカデミックライティング	2	
	テクニカルライティング	2	
	情報セキュリティ論	2	
	ビジネスアプリケーション	2	
	クラウド活用実践	2	
	データマイニング	2	
	Webデザイン実践	2	
	メディア論	2	
	グローバル化とメディア	2	
	ソーシャルメディア論	2	
	メディアと広告	2	
	ジャーナリズム論	2	
	ことばと文化	2	
	社会心理学	2	
	異文化コミュニケーション	2	
	プレゼンテーション実践	2	
	ディベート実践	2	
	ビジネス交渉	2	

[illegible]

MEMO

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

MEMO

[illegible]

大 阪 経 済 法 科 大 学

<http://www.keiho-u.ac.jp>

〈花岡キャンパス〉

〒 581-8511 大阪府八尾市楽音寺 6-10

TEL 072-920-7062 (教務課)

TEL 072-941-8211 (代表)

〈八尾駅前キャンパス〉

〒 581-8522 大阪府八尾市北本町 2-10-45

TEL 072-920-4711 (代表)